DiMAGE G600

J 使用説明書

目次

再生する 79

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

セットアップ 117

カメラの細かい設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

パソコンとの接続 144

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する方法を説明しています。

その他 165

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

リチウムイオン電池 NP-600 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
充電時温度：0℃～40℃　使用時温度：0℃～50℃

火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～35℃
湿度：45%～85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

警告

指定された電池以外を使わないでください。

発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器のACコードは、100～120ボルト、50/60ヘルツ用です。

日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。

表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。

内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。

フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。

幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因になります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やＡＣアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。

本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

カメラ・充電器・電池について（続き）

⚠注意

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

充電器やＡＣアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やＡＣアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やＡＣアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やＡＣアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用は大変危険です。弊社純正のリチウムイオン電池をお使いください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

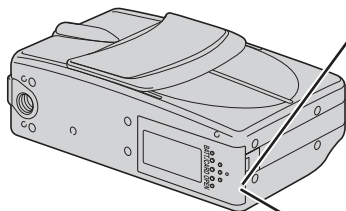
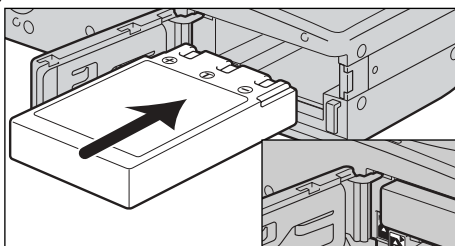
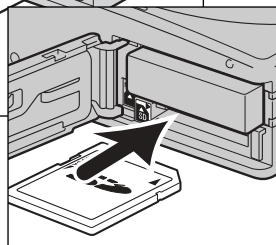
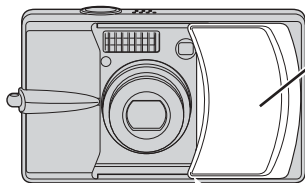
- □ カメラ本体（コニカミノルタDiMAGE G600）
- □ ネックストラップ NS-DG130
- □ リチウムイオン電池 NP-600
- □ リチウムイオン電池充電器 BC-600
- □ SDメモリーカード
- □ USBケーブル USB-800
- □ DiMAGEビューアー CD-ROM
- ☑ 本使用説明書
- □ DiMAGE Viewer使用説明書（ディマージュビューアー）
- □ アフターサービスのご案内
- □ 保証書
- □ コニカミノルタからのお知らせ

ユーザー登録について

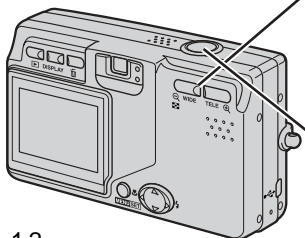
本製品をご使用になる前に、「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページで、お早めにユーザー登録（オンライン登録）を行なってください。

KONICA MINOLTAは、コニカミノルタホールディングス株式会社の登録商標です。DiMAGEはコニカミノルタフォトイメージング株式会社の登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Apple, Macintosh、Mac OS, QuickTimeは、Apple Computer, Inc, の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
Adobe およびPhotoshop Albumは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。
メモリースティックは、ソニー株式会社の商標です。
その他記載の会社名や製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

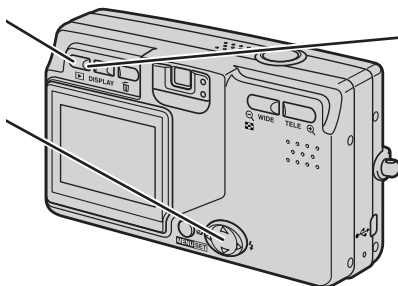
早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

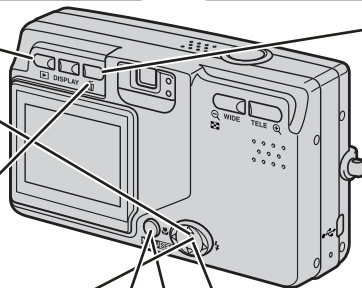
準備をする

1.電池を入れます。→P.20

2.カードを入れます。
→P.24

撮影する

1.スライドカバーを開きます。→P.33

2.ズームボタンで撮りたいものの大きさを決めます。
→P.33

- 右（TELE）側のボタンを押すと望遠に、左（WIDE）側のボタンを押すと広角になります。

3.シャッターボタンを押して撮影します。→P.34

撮影した画像を確認する→P.39

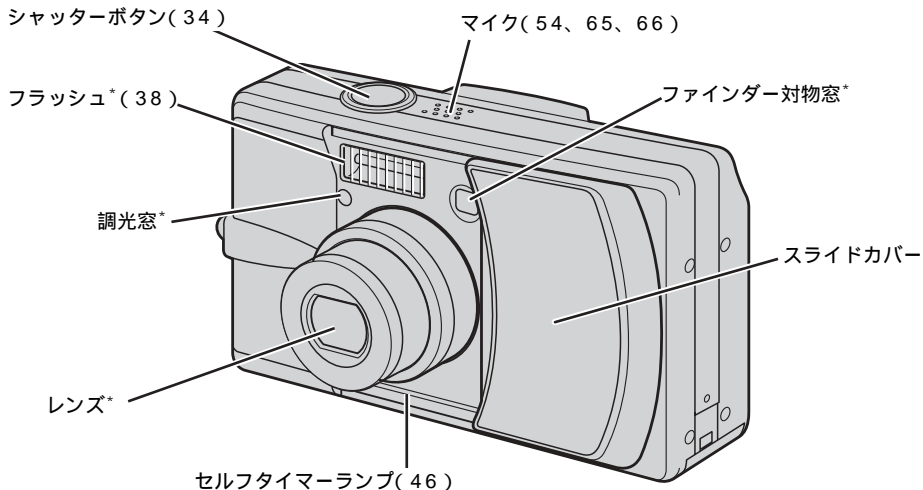
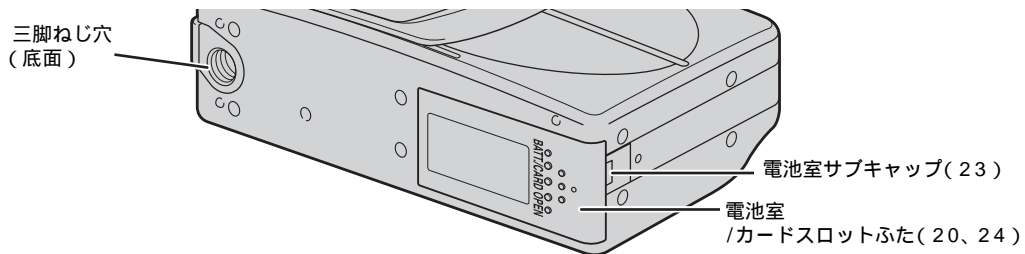
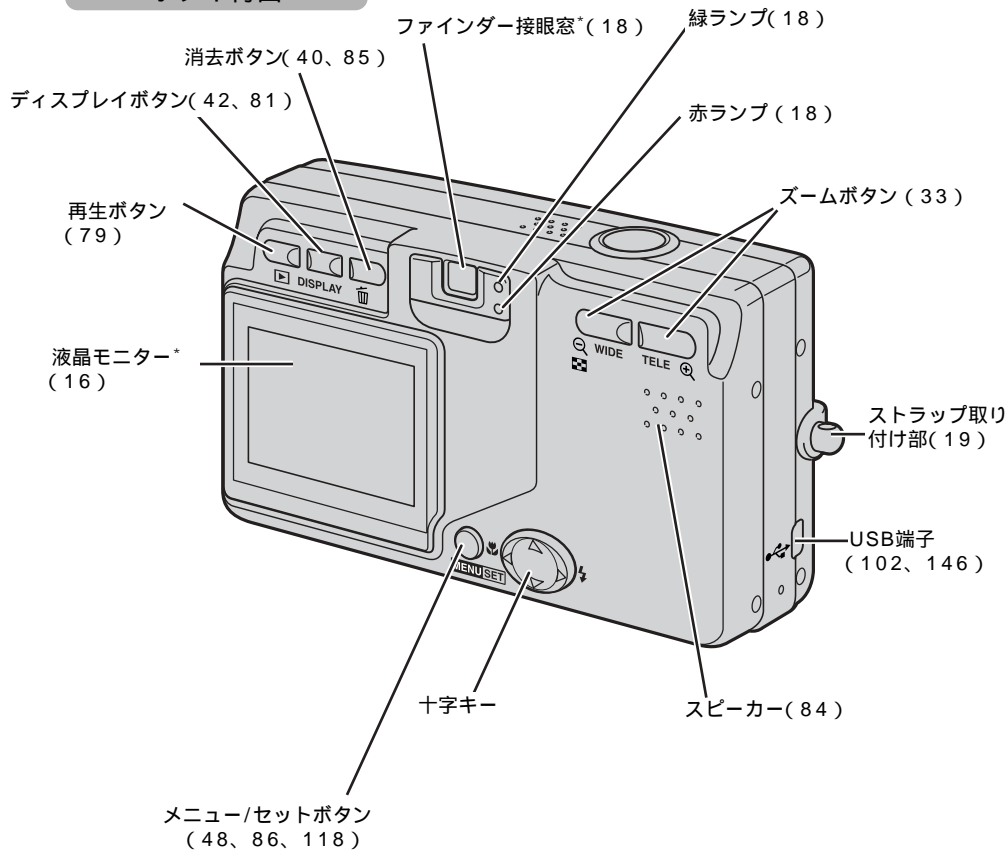
1. 撮影後、再生ボタンを押します。
2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。
3. 見終わった後、再生ボタンを再度押すか、シャッターボタンの半押しで元の撮影画面に戻ります。

画像を1コマずつ確認して消去する→P.85

1. 撮影後、再生ボタンを押します。
2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。
3. 消去ボタンを押します。
4. 十字キーの左右で「1コマ」を選択します。
5. メニュー/セットボタンを押します。
   - ●「キャンセル」を選択してメニュー/セットボタンを押すと、消去されません。
6. 消去後、再生ボタンまたはシャッターボタンの半押しで元の撮影画面に戻ります。

画像を手早く消去する（画像の選択はできません）→P.40

1. 撮影後、消去ボタンを押します。
2. 十字キーの左右で「1コマ」を選択します。
3. メニュー/セットボタンを押します。
   - ●「キャンセル」を選択してメニュー/セットボタンを押すと、消去されません。
   - ●消去後、通常撮影画面に戻ります。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。（　）内は参照ページです。

ボディ前面

シャッターボタン（34）

マイク（54、65、66）

フラッシュ*（38）

ファインダー対物窓*

調光窓*

スライドカバー

レンズ*

セルフタイマーランプ（46）

ボディ底面

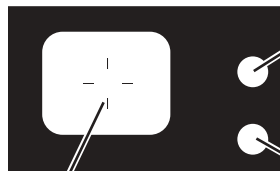
ボディ背面

ファインダー接眼窓*（18）
緑ランプ（18）
消去ボタン（40、85）
ディスプレイボタン（42、81）
赤ランプ（18）
再生ボタン（79）
ズームボタン（33）
液晶モニター*（16）
ストラップ取り付け部（19）
USB端子（102、146）
十字キー
スピーカー（84）
メニュー/セットボタン（48、86、118）

DISPLAY
WIDE
TELE
MENU SET

液晶モニター（撮影時）

※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

液晶モニター（再生時）

フォルダ番号
（フォルダの通し番号、128）
ファイル番号（ファイルの通し番号、129）
記録メディア（80）
100-0004
SD
2004/05/16
14:34:58
撮影日時
プロテクト（108）
x2.1
拡大再生（83）
電池容量（22）
(004/058)
NOR
1600X1200
音声付き画像（84）
画像サイズ（50）
：ムービー（84）
：音声（84）
メディア内の画像番号
／メディア内の画像数
圧縮率（50）

ファインダー

フォーカスマーク

緑ランプ

点灯	ピントが合っています。撮影できます。（P.34）
点滅	ピントが合っていません。撮影はできます。（P.36）

赤ランプ

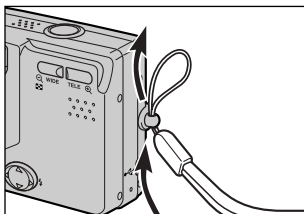
（撮影可能な時）点灯	フラッシュが光ります。（P.38）
（撮影可能な時）赤色のみ消灯	フラッシュは光りません。（P.38）
赤色のみ点灯	フラッシュが充電中です。充電が完了するまで撮影できません。（P.38） カードをフォーマット中です。カードを取り出さないで（電池室／カードスロットふたを開けないで）ください。（P.120）
点滅	手ぶれに注意して撮影してください。（P.38）

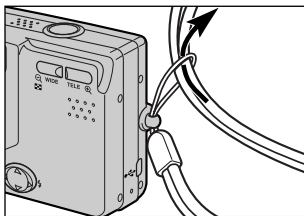
緑・赤色点灯	ピントが合っています。フラッシュが発光します。（上記の組み合わせ） USB接続中です。（P.146）
緑点滅・赤点灯	カードへのアクセス中、画像処理中です。カードを取り出さないで（電池室／カードスロットふたを開けないで）ください。
緑・赤点滅	ピントが合わずにシャッター速度も遅い。（上記の組み合わせ） カードか電池の容量がありません。（P.22） カードがライトプロテクトされているなどで、使用できません。（P.24）

DISPLAY WIDE TELE MENU SET

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

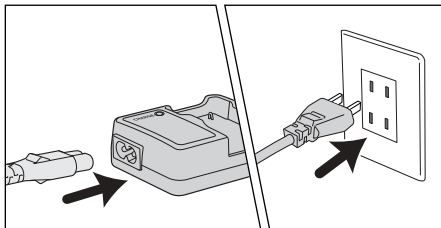
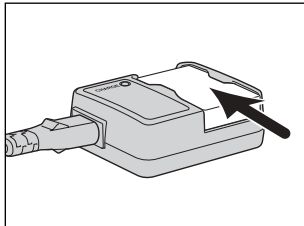
ストラップを取り付ける

1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

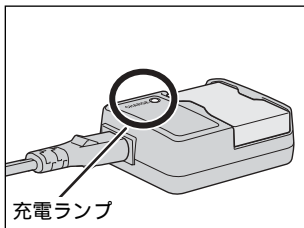
● 先端を細くして通してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

このカメラには、付属の専用電池（リチウムイオン電池NP-600）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 海外でのご使用については →P.169

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

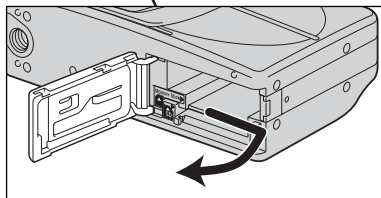
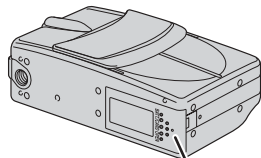
● 接点部分を先に、文字面を下にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は赤色の充電ランプが点灯します。
● 充電時間は約120分です。

3. 充電ランプが緑色に変われば充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

- 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

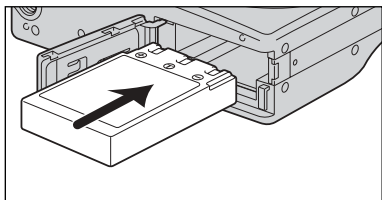
この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。

リサイクル協力店お問い合わせ先
社団法人　電池工業会
TEL:03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/

電池を入れる

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

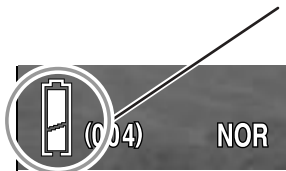
2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開きます。

次ページへ続く

3. 接点を先に、カメラの前面側に向けて電池を入れます。

4. 電池室/カードスロットふたを閉じ、カチッと音がするまでスライドさせて元通りに閉めます。

長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われます。このような場合は電源を入れた時に、日時設定画面が自動的に現れますので、P.31の4.以降に従って日時を設定してください。

電池容量の確認

電池の容量は液晶モニターに表示されます。

電池容量は十分です。

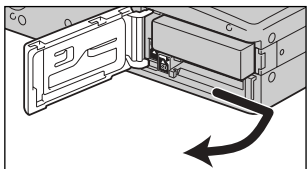
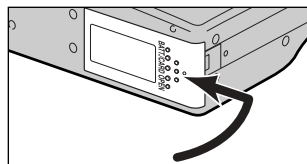
電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

緑ランプと赤ランプが点滅、または「バッテリーがありません」というメッセージが現れると、シャッターは切れません。電池を充電するか、新しい電池と交換してください。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターをおすすめします。→P.23

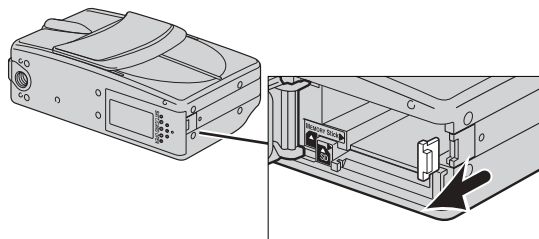
電池を取り出す

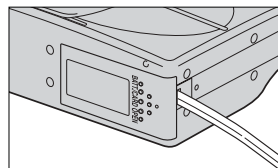
1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開きます。

3.電池を取り出した後、電池室/カードスロットふたを閉じ、カチッと音がするまでスライドさせて元通りに閉めます。

ACアダプター（別売り）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-8Uを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。ACアダプターの説明書とあわせてお読みください。

接続するときは最初にカメラの電源を切ってください。外す時もカメラの電源を切ってから外してください。 ※電源を入れる・切る→P.29

電池サブキャップは、電池室の横側にあります。このキャップをはずすと、バッテリータイプアダプターのコードを電池室から逃がすための穴ができます。かたい場合は、ピンセットのようなものを使うと容易に取り外せます。

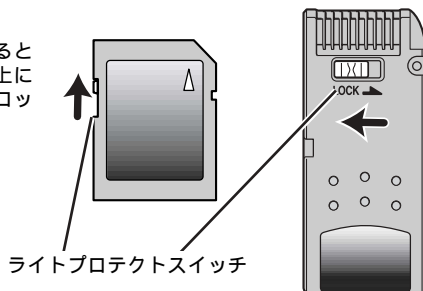
電池室を閉める時は、バッテリータイプアダプターのコードをはさまないようにしてください。

カードを入れる/取り出す

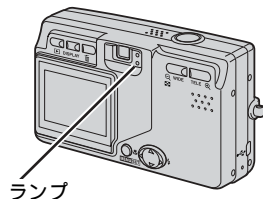
入れ方

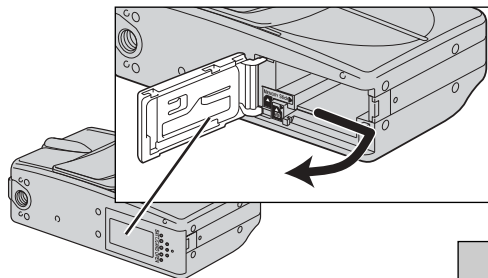
画像を記録するには、SDメモリーカードかマルチメディアカード、またはメモリースティック（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

- SDメモリーカードとメモリースティックには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。スイッチをロックすると、書き込みが禁止されてカード内の画像等を保護することができます。撮影する際には、スイッチのロックを解除してください。

SDメモリーカード　　**メモリースティック**

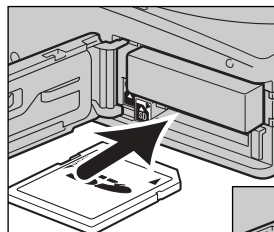
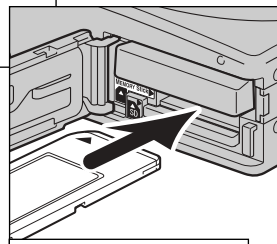
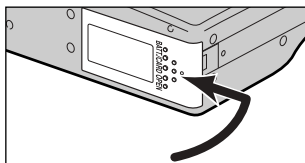
下にスライドさせるとロックされます。上にスライドさせるとロックが解除されます。

右にスライドさせるとロックされます。左にスライドさせるとロックが解除されます。

カードを入れるには、カメラの電源を切って、ランプが消えているのを確認してから行ってください。電源が入っている間にカードを取り出すと、カメラやカード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開きます。

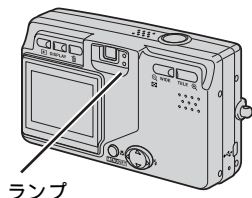
- カメラの底面を下に傾けてふたを開けると、電池が落ちることがあります。

3.カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けてカチッと音がするまで押し込みます。

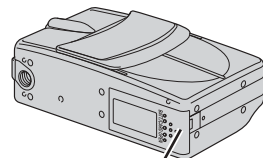
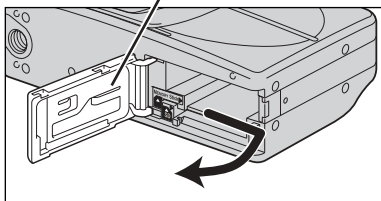
- カードスロットは2つあります。カードの種類によって挿入口が違いますので、カードスロット横の表示に従って、正しく入れてください。
- まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

SDメモリーカード
または
マルチメディアカード
用挿入口
（カメラ背面側）

メモリースティック用
挿入口
（電池室隣）

4.電池室/カードスロットふたを閉めます。

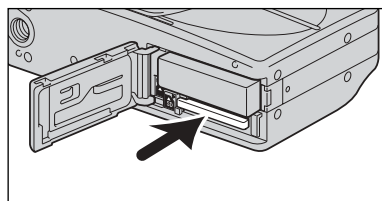
- 最後まで確実に閉めてください。
- 閉まらない場合は、次ページの要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

- カードを入れないまま電源を入れると、「カードがありません」というメッセージが現れます。
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

取り出し方

カードを取り出すには、カメラの電源を切って、ランプが消えているのを確認してから行ってください。電源が入っている間にカードを取り出すと、カメラやカード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

3.カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

● ロックが外れ、カードが出てきます。

4.カードを取り出し、ふたを閉めます。

優先メモリー

このカメラでは、SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）と、メモリースティックを使用できます。2つのメディアを使用する場合、画像が記録される方のメディアをこのカメラでは、「優先メモリー」と呼びます。

2枚のメディアを使用している場合、画像はSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）から先に記録されます（初期設定)。ただし、メディアを1枚だけ使用していて、後からメディアを追加すると先に使用していたメディアが優先メモリーとなります。例えばメモリースティックだけを先に使用していて、後からSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）を挿入した場合、優先メモリーはメモリースティックです。

優先メモリーの容量が無くなった時はもう片方のメディアが優先メモリーとなります。例えば、SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）を優先メモリーとして撮影中に、容量が一杯になると、「優先メモリ SD TO MS」というメッセージが現れ、メモリースティックが優先メモリーとなります。

優先メモリーは変更することもできます。→P.132

SD=SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）の略
MS＝メモリースティックの略

パソコンやプリンタに接続した場合、優先メモリーとして設定・記憶されているカードが、接続機器に認識されます。

撮影できる画像数

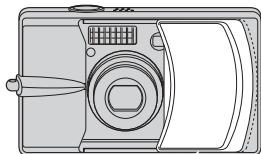
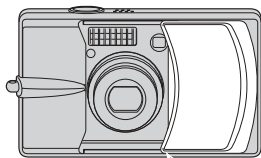
カードを入れ、スライドカバーを開いてカメラの電源を入れると、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

カードの容量に関わらず、1枚のカードで撮影できる枚数は最高999枚です。この範囲において、撮影可能な枚数は、カードの容量やカメラで設定された画像サイズおよび圧縮率によって異なります。例として16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約8枚です（画像サイズ2816×2112、圧縮率ノーマル）。

- 画像サイズ・圧縮率を変更した場合、またムービー撮影や音声付きで撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.53

- 液晶モニターに「メモリーがいっぱいです」が表示されたときは、カードの容量がいっぱいです。カードを交換するか、メディアを追加、もしくは画像を消去してください。画像サイズや圧縮率を変更すると撮影できることもあります。

- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては撮影後に、撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

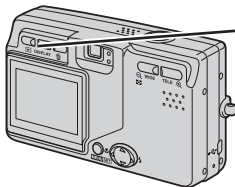
カメラの電源を入れる・切る

1.スライドカバーを矢印の方向へ、ゆっくりと、カチッと音がするまで開きます。

- レンズが前方へ繰り出して、電源が入ります。液晶モニターが点灯し、撮影可能な状態になります。

2.電源を切るには、スライドカバーを矢印の方向に、カチッと音がするまで少しスライドさせます。

- 電源が切れ、液晶モニターが消灯します。レンズが収納されます。

3.スライドカバーを最後まで閉じます。

撮影しないときは、以下の方法で、スライドカバーを開かずにカメラの電源を入れることができます。

1.スライドカバーを閉じているときに、再生ボタンを2秒以上押し続けます。

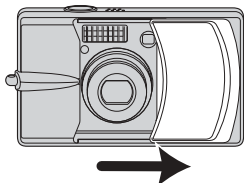
- 液晶モニターが点灯し、再生画像が表示されます。

2.再生ボタンを押して電源を切ります。

オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れる）

このカメラは、スライドカバーを開けたまま一定時間何も操作をしないでいると、節電のため電源が切れます。シャッターボタンを軽く押すなど、何らかの操作を行なえば、撮影が再開できます。
オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）は変更することができます。→P.127

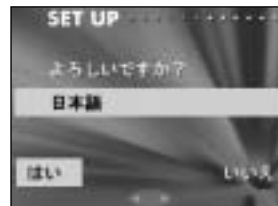
言語・日時を設定する

カメラをご購入後初めて使用されるときは、言語と日時の設定をしてください。電池を長時間取り出したままにしたときなども、日時の設定が失われることがあります。
設定画面は自動的に現れます。

1. スライドカバーを開くか、再生ボタンを2秒以上押して、カメラの電源を入れます。

● 設定画面が現れます。

2. 十字キーの上下で、希望の言語を選択し、メニュー／セットボタンを押します。

3. 十字キーの左右で「はい」を選択し、メニュー／セットボタンを押します。

●「いいえ」を選択すると設定が取り消され、前の画面に戻ります。

4.日時設定画面が現れます。十字キーの上下で修正したい項目を選択します。

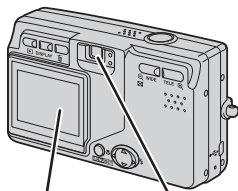
5.十字キーの左右で希望の数値を選びます。

- 2050年までの日付が記憶されています。
- 年月日（yy/mm/dd)、月日年（mm/dd/yy)、日月年（dd/mm/yy）の中から並びを選ぶことができます。
- 十字キーを押したまま保持すると、数値が早送りされます。

6.必要なだけ4、5の操作を繰り返します。

7.修正が終了したら、メニュー／セットボタンを押します。

- 時計がスタートします。

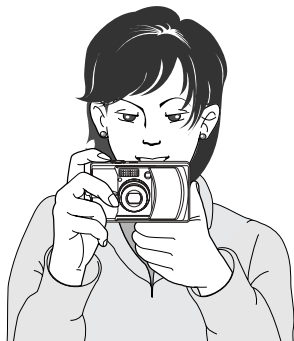
カメラを構える

撮影される画像は、ファインダーと液晶モニターで確認することができます。カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

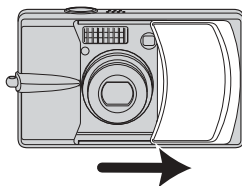
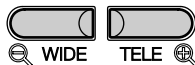
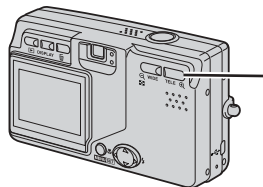
- 脇を閉め、両手でしっかりと構えます。
- レンズやカメラの前面に、特にフラッシュに、指や髪の毛、ストラップ等がかからないようにしてください。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

ファインダーを見て撮影する

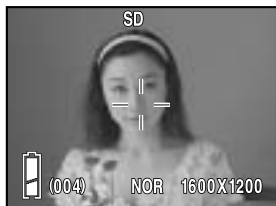
ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

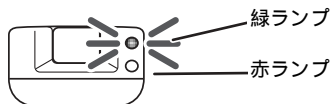
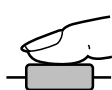
- 広角側で1m、望遠側で3mより近いものを撮影するときは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差ができます。液晶モニターで構図を決めてください。
- ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を軽減することができます。→P.42

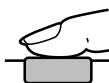
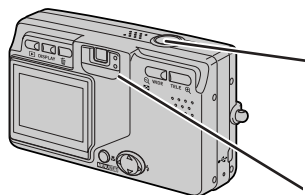
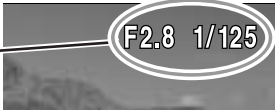
液晶モニターを見て撮影する

さまざまなデータが表示されるので便利です。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

撮影する

1.スライドカバーを開いて電源を入れます。

2.液晶モニターまたはファインダーを見ながら、ズームボタンで写したいものの大きさを決めます。

● 右側(TELE）のズームボタンを押すと望遠に、左側(WIDE）を押すと広角になります。

次ページへ続く

3.ピントを合わせたいものに-¦-を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● 半押しするとピントが合います。
● ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプが点灯します。効果音を設定している時は、音でもお知らせします。 ※ピントが合わないときは →P.36
● フラッシュが発光する時は、赤ランプも点灯します。

※半押ししたときの表示について →次ページ

4.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 撮影された画像が自動的にカードに記録（保存）されます。書き込み中は緑ランプが点滅し、赤ランプが点灯します。電池室/カードスロットふたを開けないでください。

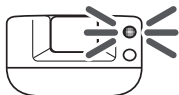
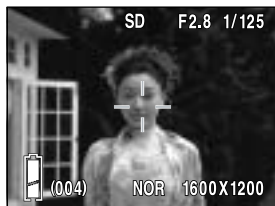
- 広角側では約50cm以上、望遠側では約80cm以上カメラから離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.45
- 撮影後、撮影した画像を液晶モニターに表示させることができます。→クイックビュー、P.122
- シャッターボタンを押し込んだまま指を放さないでいると、連続してシャッターが切れます。

- シャッターボタンを半押ししたときに現れる表示の意味は以下の通りです。

ファインダー横 緑・赤ランプ	状況
緑色のみ点灯	ピントが合っています。撮影できます。フラッシュは発光しません。
緑・赤色点灯	ピントが合っています。撮影できます。 フラッシュが発光します。
緑色点滅	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています（P.36）。撮影はできます。
赤色のみ点灯	フラッシュが充電中です。充電が完了するまで撮影できません。
赤色点滅	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
液晶モニター	**表示内容**
絞り値/シャッター速度	半押しした時にカメラが測定した測光値（絞り値とシャッター速度）が表示されます。 F2.8 1/125

- 撮影後は、スライドカバーを閉じて電源を切ってください。

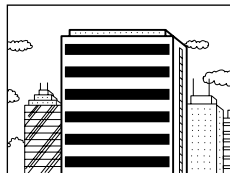
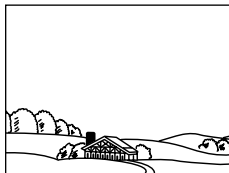
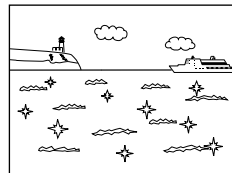
ピント合わせ

ピント合わせ

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、⁻¦⁻の部分にピントが合います。ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプが点灯します。
緑ランプが点滅したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。

・撮りたいものに近づきすぎていませんか？
広角側では約50cm以上、望遠側では約80cm以上カメラから離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.45

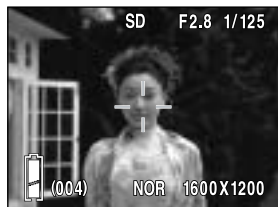
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影かフォーカス固定撮影（P.47）、AFロック（P.134）で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

横線だけで
凹凸のないもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

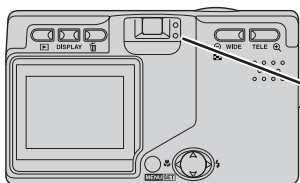
ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1.ピントを合わせたいものに-¦-を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

- ●ピントが合っていること（ファインダー横の緑ランプが点灯していること）を確認します。
- ●ピントと同時に露出も固定されます。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光の場合、必要時には自動的に発光します。

※フラッシュモードを変更するには → P.43

ファインダー横の赤ランプがフラッシュの状態をお知らせします。

ファインダー横 赤ランプ	状況
点灯	フラッシュが発光します。
赤のみ消灯	フラッシュは発光しません。
赤のみ点灯	フラッシュが充電中です。充電が完了するまで撮影できません。
点滅	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

フラッシュ光の届く距離

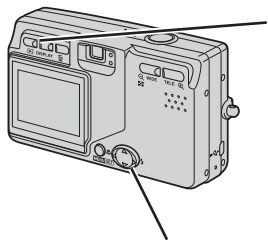
フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.0m、最望遠側では1.7mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

- 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離も変わります。→P.75

広角側：0.5～3.0m
望遠側：0.8～1.7m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

撮影した画像を確認する／消去する

画像を確認する

1.撮影後、再生ボタンを押します。

●再生モードに切り替わり、撮影された最新画像が表示されます。

2.十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

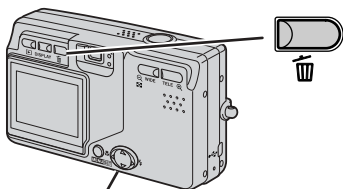
3.再生ボタンを再度押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

●ムービー画像の場合はムービー開始時の画像が、ボイスメモの場合は青い画面が表示されます。
→P.84

画像を手早く消去する

撮影したばかりの画像をすぐ消去したいときなど、再生モードに切り替えなくても画像を簡単に消去することができます。最新の1コマだけ消去したり、その最新の画像が記録されているメディア内のコマすべてを消去することができます。

※コマを選択して消去するには→P.85、92

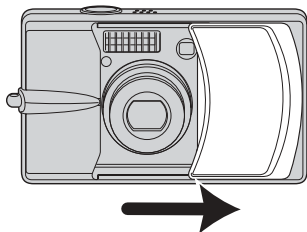
いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 撮影後、消去ボタンを押します。

- 右の画面が表示されます。最新画像が表示されています。

消去される画像が入ったメディア

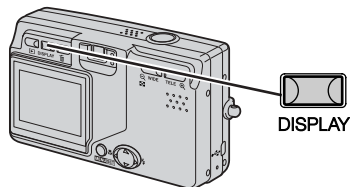
2. 十字キーの左右で希望の設定を選択し、メニュー/セットボタンを押します。

- 表示中の画像1コマのみを消去する場合は「1コマ」を、表示されたメディアの画像をすべて消去したい場合は「全コマ」を選択します。
- 「キャンセル」を選択してメニュー/セットボタンを押すと、消去をやめ、通常の撮影画面に戻ります。

応用撮影

この章では、撮影時の各種設定について説明しています。

スライドカバーを開くと、カメラは撮影可能な状態になります。スライドカバーを開いた状態で再生している時は、再生ボタンを押すと、撮影可能な状態になります。

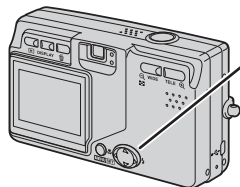
液晶モニター表示の切り替え（撮影時）

液晶モニターの表示を切り替えることができます。

ディスプレイボタンを押します。

● ボタンを押すたびに、以下の順序で液晶モニターが切り替わります。

情報表示あり　情報表示なし　液晶モニター消灯

● 上記中央の状態でも、フラッシュモードや測光値（シャッター速度・絞り値）などの撮影データは、十字キーで設定を変更した直後の数秒間や、シャッターボタンを半押ししている間表示されます。また、警告メッセージも現れます。
● この使用説明書では、情報表示ありの状態（左端）で説明しています。
● 液晶モニターを消灯させると、電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。

フラッシュモードの切り替え

十字キーの右側を押すと、以下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

LCDモニターに設定したフラッシュモードが表示されます。

表示なし

自動発光

フラッシュは必要時には自動的に発光します。

赤目軽減自動発光

暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのを和らげます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

強制発光

フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時や逆光の時などにお使いください。

夜景ポートレート

夜景を背景とした人物撮影で、両者をバランスよく再現します。フラッシュは必ず発光します。シャッター速度が遅くなります（最長1/8秒）ので、ファインダー横赤ランプが点滅したときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

発光禁止

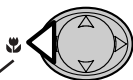
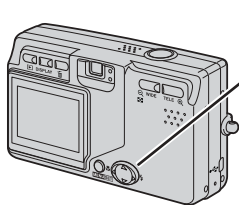
フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場合にお使いください。夜景撮影では、スローシャッターを使用することをおすすめします。→P.68

ファインダー横赤ランプが点滅したときは、シャッター速度が遅くなります（最長1/8秒）ので、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

● 設定したフラッシュモードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

●フラッシュモードごとに、最長シャッター速度の設定を変更することができます。夜景などを明るく撮影したい時などに便利です。（→P.68、スローシャッター）

※マニュアル露出モードで、フラッシュモードを切り替えるには→P.72

撮影モードの切り替え

マクロや遠景、セルフタイマーなどいろいろな撮影モードを選ぶことができます。
十字キーの左側を押すと、以下の順序で撮影モードが切り替わります。

● 初期設定ではフォーカス固定モードは選べません。

※ONにするには→P.134

● マニュアル露出撮影時、十字キーの左側はシャッター速度の設定に割り当てられます。

※撮影モードを切り替えるには→P.72

AUTO

通常撮影に向いています。マクロや遠景、セルフタイマー等の使用を解除したい時はこのモードを選択します。

マクロ

ズーム広角側では、レンズ先端から約6cmまで、望遠側では約50cmまで近づいて撮ることができます。

- 調光距離の範囲外でフラッシュを使用すると、正しい露出が得られません。また、フラッシュ光がレンズでさえぎられて画面に影ができることがあります。

※フラッシュ光の届く距離→P.38

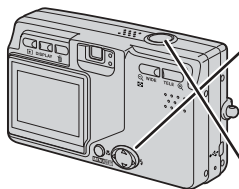
- マクロモードでは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差がありますので、液晶モニターで構図を決めてください。
- 近距離撮影の場合は、手ぶれを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- マクロモードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

遠景

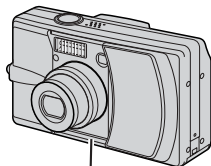
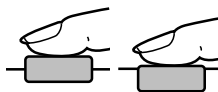
遠くの風景を撮影するのに使います。フラッシュは発光しません（フラッシュモードは発光禁止になります）。ピントは自動的に無限位置になるので、ガラス越しでの撮影などにも便利です。
ファインダー横赤ランプが点滅したときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

- 遠景モードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影することができます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1. P.44の要領で、十字キーの左側を押し、セルフタイマーモードを選択します。

2. ピントを合わせたいものに-¦-を合わせて、シャッターボタンを押して撮影します。

- ピントはシャッターが切れる直前に合います。
- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます →P.124、ビープ音
- 作動時間を3秒に設定することもできます。→P.126

セルフタイマーランプ

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、スライドカバーを閉じてください。
- 撮影後、10秒セルフタイマーモードは解除されます。3秒セルフタイマーモードは解除されません。
- 3秒セルフタイマーモードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

フォーカス固定

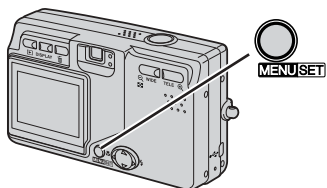
ピントを固定して撮影したい時に使用します。4m、2m、1mの距離が設定できます。

- 初期設定では、フォーカス固定モードは選べません。 ※ONにするには→P.134
- フォーカス固定モードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

REC（撮影）メニュー

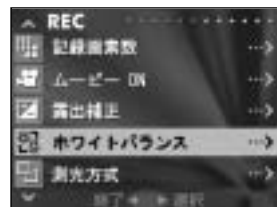
撮影時にメニューボタンを押すと、カメラの様々な撮影機能を使うことができます。ここではメニュー項目の選択方法までを説明しています。選択できるメニュー項目は次ページの通りです。各メニューの詳細設定については、それぞれのページをご覧ください。

1.スライドカバーを開きます。

●スライドカバーを開いた状態で再生している時は、再生ボタンを押すと、撮影可能な状態になります。

2.メニュー/セットボタンを押します。

●メニュー項目選択画面が現れます。

3.十字キーの上下で希望のメニュー項目を反転させます。

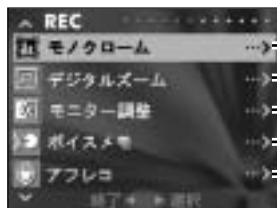
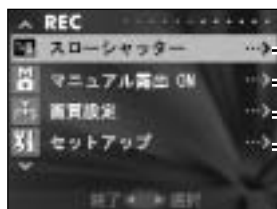
●最上段、最下段の項目が反転している時にキーを押すと、次のメニュー項目画面が表示されます。

4.十字キーの右側で反転させたメニュー項目を選択します。

●各項目の設定画面が現れます。

5.各メニュー項目ごとの設定方法にしたがって内容を選択します。（P.50～）

● メニュー項目選択画面では、十字キーの左側を押すとメニューが終了し、通常の撮影画面に戻ります。シャッターボタンの半押しでも戻ることができます。

メニュー項目選択画面

メニュー項目	内容
記録画素数	画像の大きさや圧縮率を指定します（P.50）。
ムービー ON	ムービーを撮影します（P.54）。
露出補正	画像を明るくしたり暗くしたりします（P.56）。
ホワイトバランス	光源による被写体の色の変化を抑えます（P.58）。
測光方式	カメラが被写体の明るさを測る方法を指定します（P.60）。
モノクローム	セピア、白黒で撮影します（P.61）。
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらにデジタルで倍率を拡大します（P.62）。
モニター調整	液晶モニターの明るさと色合を調整します（P.64）。
ボイスメモ	音声のみを録音します（P.65）。
アフレコ	すでに記録されている画像に音声を付けます（P.66）。
スローシャッター	カメラの最長シャッター速度の設定を変更します（P.68）。
マニュアル露出 ON	シャッター速度と絞り値を指定します（P.70）。
画質調整	ISO、フラッシュ発光量、色や画像のメリハリを調整します（P.74）。
セットアップ	セットアップメニュー画面を表示します（P.118）。

● REC（撮影）メニューの内容を最小限にすることができます。(P.121)

記録画素数（画像サイズと圧縮率）

画像の大きさや圧縮率を指定します。

設定内容　**◎は初期設定値です。**

サイズ	**画像サイズを指定します。**
◎2816x2112	**このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合*におすすめします。約600万画素の画像が撮影できます。** *A5（210mm×148mm）〜A3（420mm×297mm）程度
2272x1704	**パソコンに取り込んで編集するときや、大きめにプリントする場合**におすすめします。約390万画素の画像が撮影できます。** **2L判（178mm×127mm）〜A4（297mm×210mm）程度
1600x1200	**パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合***におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。** ***L判（127mm×89mm）〜A5（210mm×148mm）程度
640x480	**1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。**
圧縮率	**画像を圧縮する率を指定します。**
FINE ファイン	**低めの圧縮率で記録します。ファイルサイズは大きくなり、記録枚数は減ります。目安として、画像を加工したり、プリントする場合に適しています。**
◎NORMAL ノーマル	**高めの圧縮率で記録します。ファイルサイズは小さくなり、記録枚数は増えます。目安として、640x480の画像はメール添付に、その他のサイズではプリントする場合に適しています。**

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi〜300dpiの場合を指しています。

画像サイズについて

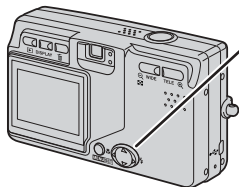
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2816×2112画素の場合、画像は横に2816、縦に2112に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリントできますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

圧縮率について

画像を圧縮しないとファイルサイズ（P.51）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。FINE（ファイン）は圧縮率が小さく、NORMAL（ノーマル）画像は圧縮率がファインよりも大きくなります。ノーマルよりもファインの方が高画質ですが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。また、JPEG形式の画像は保存すると圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできません。特に後で画像の加工や編集を行う場合、保存の作業のたびに画質は劣化しますので、撮影はFINE（ファイン）の設定で行なうことをおすすめします。

このカメラでは、画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率の大きい方がファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。

次ページへ続く

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「記録画素数」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で「サイズ」または「圧縮率」を選択、右へ移動し、上下で希望の設定を選択、右側を押して決定します。

● 下記は「サイズ」を選択した場合の画面ですが、「圧縮率」についても、同じ方法で設定できます。

① 右側で移動

REC
記録画素数
サイズ 2816×2112
2272×1704
1600×1200
640×480

② 上下で設定を選択

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

● 決定後に十字キーの左側を押すと、設定が終了し、メニュー項目選択画面に、シャッターボタンを半押しすると、通常撮影画面に戻ります。

NOR 1600X1200

圧縮率	画像サイズ
FIN :FINE	2816x2112
NOR :NORMAL	2272x1704
	1600x1200
	640x480

● 選択した画像サイズと圧縮率は、液晶モニターに表示されます。

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと圧縮率によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として16MBの1枚のSDメモリーカードに記録できる撮影画像数は以下の通りです(アフレコなし)。

● 下記の値は被写体によって異なるため、撮影のたびに変動します。あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

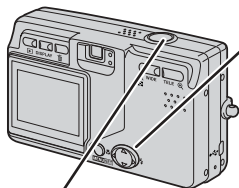
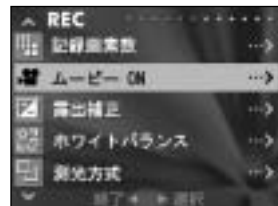
	2816x2112	2272x1704	1600x1200	640x480
ノーマル	約1500KB	約800KB	約400KB	約100KB
ファイン	約2500MB	約1600KB	約800KB	約200KB
ムービー	約180KB／秒			
音声*	約8KB／秒			

*ボイスメモ・アフレコ

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	2816x2112	2272x1704	1600x1200	640x480
ノーマル	約8コマ	約16コマ	約33コマ	約133コマ
ファイン	約5コマ	約8コマ	約16コマ	約66コマ
ムービー	合計　約70秒			
ボイスメモ	合計　約28分30秒			

ムービー撮影

連続最長30秒までのムービー撮影ができます。音声も同時に記録されます。

1.P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「ムービーON」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.シャッターボタンを押して撮影を開始させます。

●撮影中は「記録中...」のメッセージと、経過時間が表示されます。

3.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

●残り時間が無くなるとシャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

※ムービーの再生→P.84

4.ムービー撮影を行わない場合、メニュー/セットボタンでメニュー項目選択画面に戻り、「ムービーOFF」を反転させてから、十字キーの右側を押します。

ムービー撮影前に設定可能、撮影中は切り替え不可の機能

●以下の機能は、ムービー撮影の前には設定できますが、撮影を始めると使用できません。
光学ズーム、ピント位置、マクロ、遠景、1m、2m、4m撮影、セルフタイマー、露出補正、ホワイトバランス、測光方式

ムービー撮影時に設定が固定される機能

●以下の機能は、ムービー撮影時には、（　）内の設定に固定されます。
記録画素数（QVGA/320x240）、ISO（撮像感度）（AUTO）、彩度（±0）、コントラスト（±0）、シャープネス（±0）

ムービー撮影時に使用不可の機能

●以下の機能は、ムービー撮影時には使用できません。
フラッシュ、モノクローム、デジタルズーム、スローシャッター、マニュアル露出、画質設定、液晶モニターの消灯

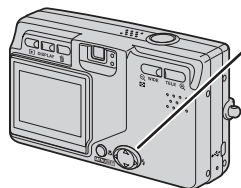
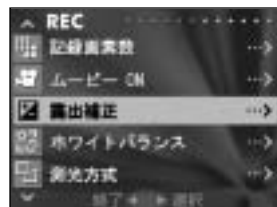
●カードへの記録速度の関係上、カードによってはまれに、撮影残り時間があっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。

露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりすることができます。－1.5～＋1.5の範囲で0.3段ごとに設定できます。

＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

露出補正－側

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「露出補正」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの左右で、露出補正の設定を変更します。

● 右を押すと画面は明るくなります（＋側に露出補正）。左を押すと暗くなります（－側に露出補正）。

現在の設定値(±0)

3.調整が終わったら、メニュー/セットボタンを押してメニュー項目選択画面に戻るか、シャッターボタンを半押しして通常撮影画面に戻ります。

- 液晶モニターに設定した露出補正値が表示されます。
- 設定した露出は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

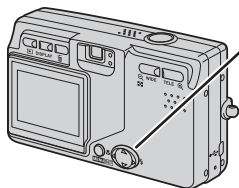
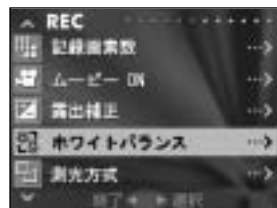
- 露出補正を解除するときは、同じ要領で±0を選んでください。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽく写ったり黄色っぽく写ったりします。白いものを白く写るように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、AUTOで思うような色が出ないときは、その他の設定で意図的に被写体を照射している光源を選ぶことができます。

設定内容

◎AUTO（オート）	ホワイトバランスは自動的に調整されます。
昼光	昼光（晴れた明るい屋外）での撮影に適しています。
曇天	曇天（曇った屋外）での撮影に適しています。
蛍光灯	蛍光灯下での撮影に適しています。
白熱灯	白熱灯（タングステン光）での撮影に適しています。

● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「ホワイトバランス」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.十字キーの上下で希望のホワイトバランスを選択し、右側を押して決定します。

●「曇天」が選択されている状態で下側を押すと「蛍光灯」、「白熱灯」が選択できます。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

● 決定後メニュー項目選択画面へ戻ります。

● 選択したホワイトバランスは、液晶モニターに表示されます。
オートの場合、液晶モニターに表示は現れません。

昼光
曇天
蛍光灯
白熱灯

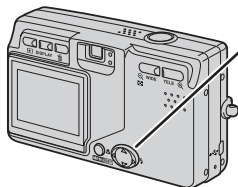
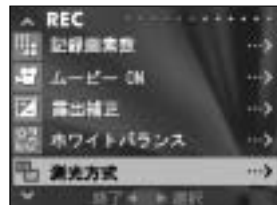
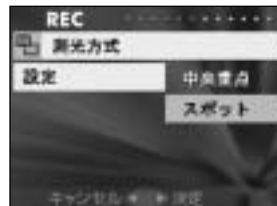
● フラッシュが発光する場合、ホワイトバランスはAUTOに設定されます。
● 設定したホワイトバランスは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

測光方式

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を指定できます。

設定内容

◎は初期設定値です。

◎中央重点	中央重点的平均測光は、画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.56
スポット	スポット測光は、フォーカスマーク付近で測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分がフォーカスマーク付近にないときは、フォーカスロックが必要になります。→P.37

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「測光方式」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の測光方式を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

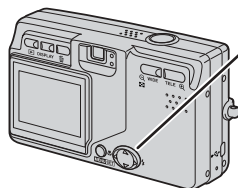
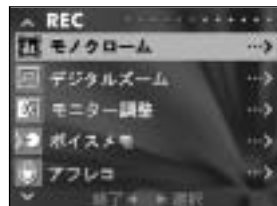
● 決定後メニュー項目選択画面へ戻ります。

● 設定した測光方式は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

モノクローム撮影

撮影する画像の色を、モノクロ、セピアの中から指定できます。
● モノクローム撮影時、ホワイトバランス設定は無効となります。
● モノクローム撮影しても画像のファイルサイズはOFF（カラー）とほぼ同じです。

設定内容　◎は初期設定値です。

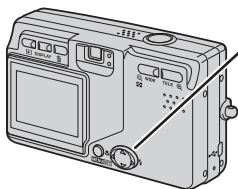
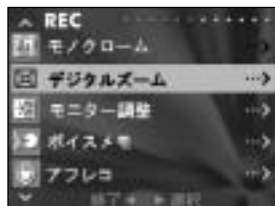
◎OFF	カラー画像で記録されます。
セピア	セピア調で記録されます。
白黒	白黒で記録されます。

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「モノクローム」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望のモノクローム設定を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。
● 決定後メニュー項目選択画面へ戻ります。
● 選択したモノクローム設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

デジタルズーム

通常の光学ズーム（P.33）は3倍までですが、デジタルズームと組み合わせると、さらに2倍または3倍に画像を拡大することができます。

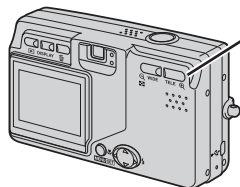
設定内容　◎は初期設定値です。

ON	デジタルズームが起動します。
◎OFF	デジタルズームは起動しません。

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「デジタルズーム」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で「ON」または「OFF」を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

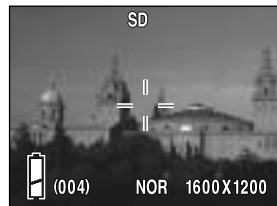
● 決定後メニュー項目選択画面へ戻ります。

● デジタルズームONの設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

操作方法

1.右（TELE）側のズームボタンを押して、光学ズームを最望遠側にします。

2.さらに右側のズームボタンを1回押すと2倍に、2回押すと3倍に画像が拡大されます。

●元に戻すには左側のズームボタンを押してください。

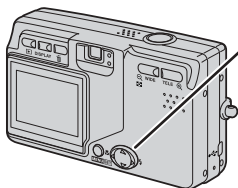
●デジタルズーム時には、液晶モニターに倍率（X2、X3）が表示されます。

●デジタルズームは、液晶モニターを見ながら操作してください。液晶モニターが消灯しているとデジタルズームはできません。

●デジタルズーム後に液晶モニターを消灯させると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。

●デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

●デジタルズーム時は通常撮影に比べて手ぶれしやすくなります。

液晶モニターの明るさ・色調整

液晶モニターの明るさや色合を調整することができます。

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「モニター調整」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で、明るさまたは色を選択し、左右で選択した明るさまたは色を調整します。

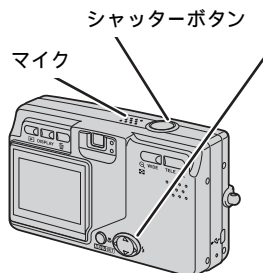
● 色合は相対値として設定されます。たとえば、最も赤を強調したい場合は、赤の濃さを一番右側に設定するだけでなく、緑と青を一番左側に設定します。

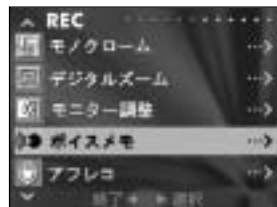
3. 調整が終わったら、メニュー/セットボタンを押すかシャッターボタンを半押しします。

● 設定した明るさや色合は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

● 再生モードメニューでも同様の調整を行うことができます。どちらで調整しても設定値は変わりません。

ボイスメモ

音声のみを録音できます。最長30秒の録音が可能です。

シャッターボタン
マイク

1.P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「ボイスメモ」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.シャッターボタンを押すとすぐに録音が開始されます。マイクに向かって話します。

- マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
- 残り時間がなくなると、自動的に録音が終了します。

SD
ボイスメモ
シャッターボタン： START
00:00
SET：戻る
(004)

3.録音を終了するには、シャッターボタンを押します。

- 30秒経過すると、録音は自動的に終了します。

録音経過時間

- メニュー/セットボタンを押すと、メニュー項目選択画面に戻ります。
- 録音した音声は、再生モードでシャッターボタンを押すと再生されます。→P.84

アフレコ

撮影済みの静止画像に音声を付けることができます。また、付けた音声を消去したり録音し直すこともできます。最長30秒の録音が可能です。

*アフレコ ＝ アフターレコーディング (After recording) の略

- **ムービー画像やボイスメモ、プロテクトされた画像にはアフレコを付けることはできません。**

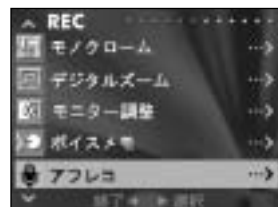
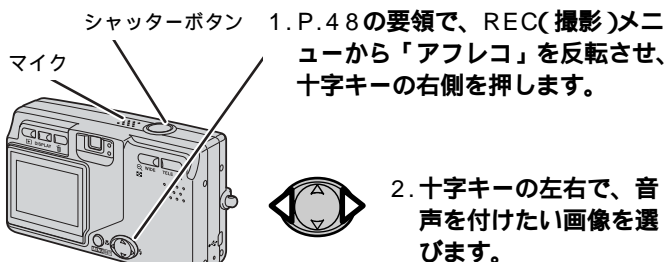
※プロテクトの解除→P.108

- **すでに録音したアフレコに、音声を直に上書きすることはできません。一度音声を消去してから、アフレコし直してください（次ページ）。**

シャッターボタン

マイク

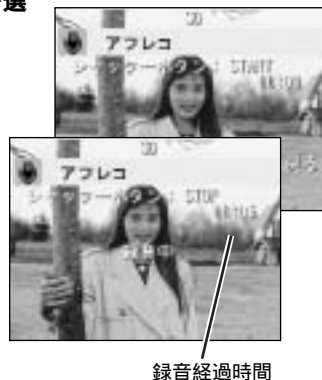
1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「アフレコ」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの左右で、音声を付けたい画像を選びます。

3. シャッターボタンを押すとすぐに録音が開始されます。マイクに向かって話します。

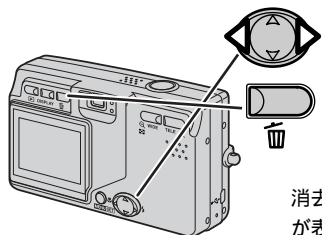
- **マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。**
- **残り時間がなくなると、自動的に録音が終了します。**

4. 録音を終了するには、シャッターボタンを押します。

- **30秒経過すると、録音は自動的に終了します。**

録音経過時間

- **メニュー/セットボタンを押すと、メニュー項目選択画面に戻ります。**
- **毎回、静止画の撮影直後に自動的に実行画面が表示されるように設定することもできます。（→アフレコ設定　P.133）**

●アフレコを付けた画像には、液晶モニターに（アイコン）が表示されます。音声を再生するには、再生モードで画像を表示させ、シャッターボタンを押してください。→P.84

録音済みのアフレコを消去する

1.前ページの2.で、アフレコを消去したい画像を表示させ、消去ボタンを押します。

●消去されるアフレコ音声が入ったメディアが表示されています。

2.十字キーの左右で希望の設定を選択し、メニュー/セットボタンを押します。

●選択した画像のみのアフレコを消去する場合は「1コマ」を、メディア内のアフレコをすべて消去したい場合は「全コマ」を選択します。

●録音し直す場合は、この後、シャッターボタンを押して録音します。

スローシャッター

スローシャッター（最長シャッター速度）の設定をフラッシュモードに応じて変更することができます。

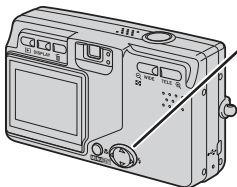
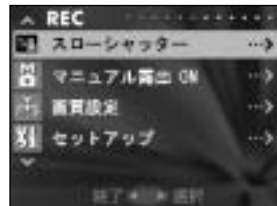
● マニュアル露出時は、スローシャッター設定は無効になります。

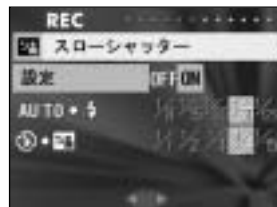
設定内容

◎は初期設定値です。

設定	撮影時スローシャッターの手動設定を有効にするか無効にするかを指定します。
◎OFF	スローシャッターの手動設定を無効にします。最長シャッター速度は、自動発光（赤目軽減自動発光）と強制発光時は1/60秒に、発光禁止と夜景ポートレート時は1/8秒になります。
ON	スローシャッターの手動設定を有効にします。
AUTO・	スローシャッターON時、自動発光（赤目軽減自動発光）、強制発光時の最長シャッター速度を指定します。
1/8・1/15・1/30・◎1/60・1/125	1/8秒、1/15秒、1/30秒、1/60秒、および1/125秒の中から設定を選べます。
・	スローシャッターON時、発光禁止、夜景ポートレート時の最長シャッター速度を指定します。
1/1・1/2・1/4・◎1/8・1/15	1/1秒、1/2秒、1/4秒、1/8秒、および1/15秒の中から設定を選べます。

● AUTO（自動発光）、（強制発光）の最長シャッター速度は、焦点距離によって変動します。

● 暗い場所での撮影は、シャッター速度が遅くなるため、手ぶれをおこすことがありますので、三脚のご使用をおすすめします。

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「スローシャッター」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.十字キーの左右で「ON」または「OFF」を選択します。

●「OFF」を選択した場合、4.に進んで設定を終了します。

3.2で「ON」を選んだ場合、十字キーの上下でフラッシュモード（「AUTO・ 」または「 ・ 」）を選択してから、左右で、選択したフラッシュモードの最長シャッター速度を設定します。

● 下記は「AUTO・ 」を選択した場合の画面ですが、「 ・ 」についても同様に設定できます。

4.必要な項目について設定したら、メニュー/セットボタンを押してメニュー項目選択画面に戻るか、シャッターボタンを半押しして通常撮影画面に戻ります。

マニュアル露出

シャッター速度と絞り値を選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときなどに便利です。

● マニュアル露出撮影時に使用できなかったり、設定が固定される機能があります。

※詳しくは→P.73

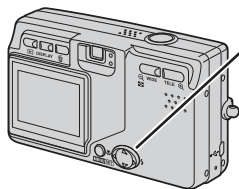
シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞りが開放の時は、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に小絞りだと、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞りが開放のとき
（絞り値が小さいとき）

小絞りのとき
（絞り値が大きいとき）

1. P.48の要領で、REC（撮影）メニューから「マニュアル露出 ON」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの左右で希望のシャッター速度を選択します。

- シャッター速度は、15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。
- 液晶モニターにマニュアル露出であることを示すMマーク、絞り値、シャッター速度が常に表示されます。

3. 十字キー下側で希望の絞り値を選択します。

- 押すたびに開放と小絞りが切り替わります。

- 青で表示されたシャッター速度と絞り値は、マニュアル露出の設定が可能であることを示します。

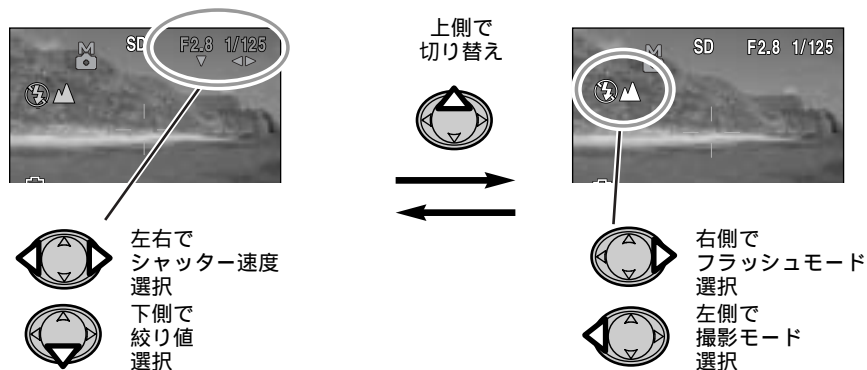
- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに、カメラが測光した露出値を基準（±0）として、撮影者が選んだシャッター速度と絞り値による露出値が、−2Ev〜＋2Evの範囲で0.3Evごとに表示されます。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は表示が赤になります。

次ページへ続く

4.マニュアル露出撮影を止めるには、メニュー/セットボタンでメニュー項目選択画面に戻り、「マニュアル露出OFF」を反転させてから、十字キーの右側を押します。

● マニュアル露出ONの設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

マニュアル露出撮影時の十字キー操作

通常十字キーの左右には、フラッシュモードと撮影モードがそれぞれ割り当てられていますが、マニュアル露出設定時は、左右がシャッター速度・下側が絞りの変更に使用されます。
十字キーの上側を押すと、シャッター速度/絞りの設定を中断し、フラッシュモード、撮影モードなどを変更することができます。
マニュアル露出設定が可能な時は、液晶モニター上のシャッター速度と絞り値が青で表示されます。一方、左上にある各モードの表示はグレーになり、選択できません。
フラッシュモード、撮影モードの選択が可能な時は、青の数値が白に変わります。グレーになっていた各モードの表示が白になり、選択できることを示します。

処理速度について

● シャッター速度が1/2秒以上の場合、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。

マニュアル露出撮影時に設定が固定される機能

● マニュアル露出撮影時には、以下の機能は（　　）内の設定に固定されます。変更はできません。
ISO　AUTO時の感度（ISO50）

マニュアル露出撮影時に使用不可の機能

● 以下の機能は、マニュアル露出撮影時には使用できません。
露出補正（P.56）、AEロック（P.134）

手ぶれ警告について

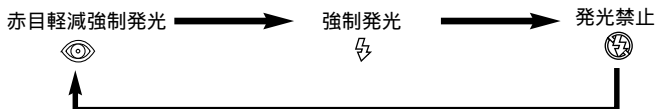
● 手ぶれ警告（赤ランプの点滅）は表示されません。

フラッシュの発光量について

● マニュアル露出撮影でフラッシュを使用する場合、小絞りに（絞り値を大きく）すると、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞りを開放に（絞り値を小さく）して撮影することをおすすめします。

※フラッシュ光の届く範囲 →P.38、75

フラッシュモードについて

● 自動発光と夜景ポートレートは使用できません。また、赤目軽減自動発光は、赤目軽減強制発光（常に発光）になります。押すたびに以下の順序で切り替わります。

画質設定 - ISO、フラッシュ光量、色、コントラスト、シャープネス

お好みに合わせて、ISO（撮像感度）、フラッシュ発光量、彩度、コントラスト、シャープネス、色合（赤・緑・青）の組み合わせを2通りまで設定することができます。

- ムービー撮影では、色合の設定以外は反映されません。
- 白黒やセピア撮影では、彩度、色合の設定は反映されません。

設定内容

◎は初期設定値です。

設定 ◎OFF 1・2	設定した画質設定を呼び出したり、設定を変更したりします。 ISOはAUTOに、その他の設定は±0になります。 画質を設定する時、設定を変更する時、設定した画質で撮影する時に指定します。
ISO ◎AUTO・50・ 100・200・400	撮影時の感度を選択します。 AUTO（オート）は、自動的に感度が調整されます。AUTOの他に、明るさや状態に応じて50、100、200、および400の中から設定を選べます。

※詳細は→次ページ　ISO（撮像感度）

フラッシュ光量
−1・−0.5・
◎0・+0.5・+1

フラッシュの発光量を調整します。
−1Ev〜＋1Evまで、0.5Evごとに設定を選べます。
※詳細は→P.76　露出補正とフラッシュ光量調整の違い

彩度
−2・−1・
◎0・+1・+2

カラー撮影時の色の鮮やかさを調整します。
−2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。＋側は色鮮やかでくっきりとした画像に、−側は落ち着いた画像になります。

コントラスト
−2・−1・
◎0・+1・+2

撮影する画像のコントラスト（明暗差）を調整することができます。
−2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。＋側はメリハリの効いたくっきりした画像に、−側は白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

シャープネス
−2・−1・
◎0・+1・+2

撮影する画像の鮮鋭度を調整することができます。
−2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。＋側は、輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像に、−側は輪郭のやわらかな画像になります。

色合（赤・緑・青）
−2・−1・
◎0・+1・+2

カラー撮影時の、赤・緑・青各色の濃さを調整します。
−2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。
※詳細は→P.76　色合

ISO（撮像感度）

ISO（撮像感度）はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなります。

● マニュアル露出モード時にはISO 50で固定されます。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）		AUTO（オート）	ISO 50	ISO 100	ISO 200	ISO 400
フラッシュの調光距離	広角側	0.5〜3.0m	0.5〜1.5m	0.5〜2.1m	0.5〜3.0m	0.5〜4.3m
	望遠側	0.8〜1.7m	0.8〜0.86m	0.8〜1.2m	0.8〜1.7m	0.8〜2.4m

次ページへ続く

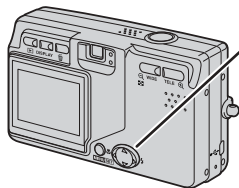
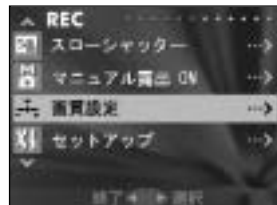
露出補正とフラッシュ光量調整の違い

フラッシュが発光する場合は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。

一方フラッシュ光量の調整は、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、フラッシュ光量をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

- フラッシュの光量には限りがあるため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

色合

色合は相対値として設定されます。「0（赤）・0（緑）・0（青）」も「－2（赤）・－2（緑）・－2（青）」も同じ効果になります。たとえば、最も赤を強調したい場合は、赤の濃さを＋2に設定するだけでなく、緑と青を－2に設定します。

1.P.48の要領で、REC(撮影)メニューから「画質設定」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.十字キーの上下で「設定」を選択します。

3.十字キーの左右で希望の画質(「OFF」、「1」、または「2」)を選択します。

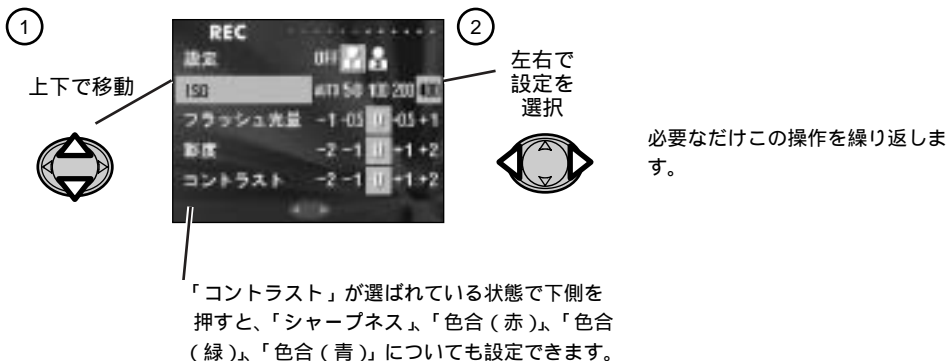
- 選択した画質でそのまま撮影したいときは、5.に進んで設定を終了します。

次ページへ続く

4.3.で選んだ画質を変更する場合、十字キーで希望の項目と設定を選択します。

● 下記は画質設定「1」の項目「ISO」について、設定「400」を選択した場合の画面です。「フラッシュ光量」、「彩度」、「コントラスト」、「シャープネス」、「色合」についても、同じ方法で設定できます。

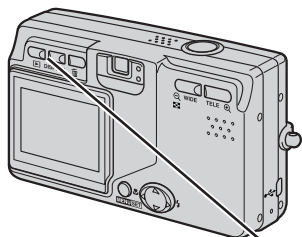
●必要なだけこの操作を繰り返します。

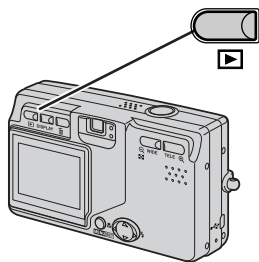
●「コントラスト」が選ばれている状態で下側を押すと、「シャープネス」、「色合（赤）」、「色合（緑）」、「色合（青）」についても設定できます。

5.必要な項目について設定したら、メニュー/セットボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。

●通常撮影画面に戻ります。

●選択した画質設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

再生する

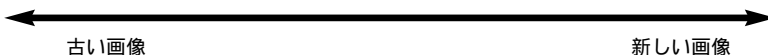
この章では、再生モードでの各種設定について説明しています。

スライドカバーが開いている時に再生ボタンを押すと、再生モードになります。

1コマ再生

1.再生ボタンを押します。

- 撮影された最新画像が表示されます。
- スライドカバーが閉じている（カメラの電源が切れている）状態から再生モードで起動することもできます。この場合は、再生ボタンを2秒以上押し続けてください。

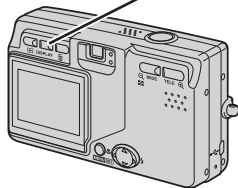
2.十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

- カードに画像や音声が記録されていない場合は、「データがありません」というメッセージが表示されます。

古い画像　　　　新しい画像

- メディアを1種類しか使用していない場合は、最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- 複数のメディアを使用している場合、最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、もう片方のメディアの最も古い画像が表示されます。逆も同様です。
- ムービー画像の場合はムービー開始時の画像が、ボイスメモの場合は青い画面が表示されます。→P.84

画像表示の切り替え（再生時）

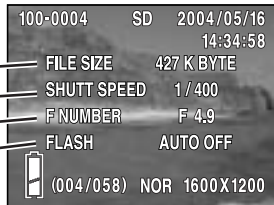
DISPLAY

画像の再生中にディスプレイボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

● この使用説明書では、表示ありの状態で説明しています。

※各表示については→P.17

表示あり　　表示なし

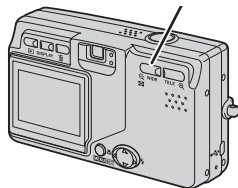
表示ありのときに、十字キーの上側を押すと、さらに以下の情報が表示されます。

画像のファイルサイズ
シャッター速度
絞り値
フラッシュ発光の有無
ムービー画像の情報は表示されません。

表示を元に戻すには、十字キーの上側を再度押します。

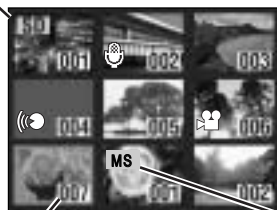
インデックス再生

9コマ分を一度に液晶モニターに表示することができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

1コマ再生時に、ズームボタンの左（WIDE）側を押します。

●インデックス画面に切り替わります。

● 画面の最初のコマにメディアの種類が表示されます。

● 画像の設定が表示されます。

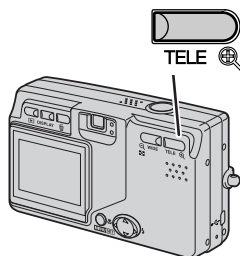
：ボイスレコード
：アフレコ
：ムービー

● 十字キーで画像を選択することができます。

● 複数のメディアを使用している場合、切り替わったメディアの最初のコマにメディアの種類が表示されます。

画像番号

● 右側（TELE）のズームボタンやシャッターボタンを半押しすると1コマ再生の画像に戻ります。
● ムービー画像の場合はムービー開始時の画像が、ボイスメモの場合は青い画面が表示されます。

拡大再生

再生画像を、最大14.7倍まで拡大することができます。
● ムービー画像の拡大再生はできません。

1コマ再生時にズームボタンの右（TELE）側を押します。

- ●ズーム画面が現れ、ズームボタンの右側を押すと画像が 最大14.7倍まで拡大されます。ズームボタンの左側を押すと縮小されます。
- ● 現在の拡大倍率が画面に表示されます。
- ● シャッターボタンを半押しすると拡大前の画像に戻ります。

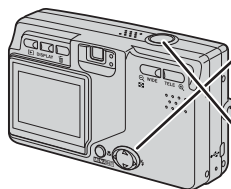
- ● 十字キーで見たい部分を移動させることができます。

● 記録画素数によって拡大できる倍率の上限は異なります。

記録画素数	拡大倍率
2816x2112	14.7倍
2272x1704	10.1倍
1600x1200	8.3倍
640x480	3.3倍

ムービー・ボイスメモ・アフレコの再生

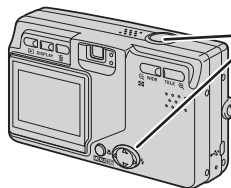
撮影したムービーやボイスメモ、アフレコを再生します。

ムービーの再生

1. 十字キーの左右で再生したいムービー画像を表示させます。

2. シャッターボタンを押して、ムービー再生を開始します。

最後まで再生すると、自動的にムービー開始前の状態に戻ります。

●途中で終えるときは、シャッターボタンを再度押してください。

ボイスメモ・アフレコの再生

十字キーの左右で再生させたいコマを選んでから、シャッターボタンを押して、再生を開始します。

● 再生前は、画面右上に録音時間が表示されます。再生が始まると経過秒数画の表示に変わります。

ボイスメモ再生前画面

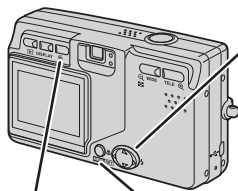
アフレコ再生前画面

最後まで再生すると、自動的に開始前の状態に戻ります。

● 途中で終えるときは、シャッターボタンを再度押してください。

消去ボタンによる画像の消去

画像を消去します。1コマだけ消去したり、メディア内のコマをすべて消去します。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

- インデックス再生画面（P.82、88）で消去する画像を選ぶこともできます。

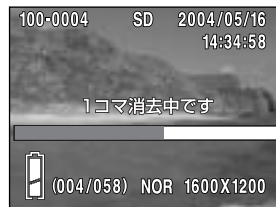
メニュー/セットボタン

消去ボタン

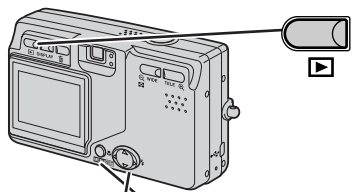
2.消去ボタンを押します。

- 右の画面が表示されます。
- 消去される画像が入ったメディアが表示されています。

3.十字キーの左右で希望の設定を選択し、メニュー/セットボタンを押します。

- 選択した画像1コマのみを消去する場合は「1コマ」を、メディア内の画像をすべて消去したい場合は「全コマ」を選択します。
- 「キャンセル」を選択してメニュー/セットボタンを押すと、消去をせずに、通常再生画面に戻ります。

※画像を指定して一度に消去するときは →P.92

PLAY（再生）メニュー

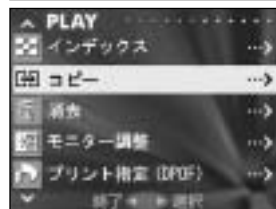
再生モードのときにメニュー/セットボタンを押すと、カメラの様々な設定を変更することができます。ここではメニュー項目の選択方法までを説明しています。選択できるメニュー項目は次ページの通りです。各メニューの詳細設定については、それぞれのページをご覧ください。

1.再生ボタンを押します。

●スライドカバーが閉じている（カメラの電源が切れている）状態から再生モードで起動することもできます。この場合は、再生ボタンを2秒以上押し続けてください。

2.メニュー/セットボタンを押します。

●メニュー項目選択画面が現れます。

3.十字キーの上下で希望のメニュー項目を反転させます。

●最上段、最下段の項目が反転している時にキーを押すと、次のメニュー項目画面が表示されます。

4.十字キーの右側で反転させたメニュー項目を選択します。

●各項目の設定画面が現れます。

●「スライドショー」を選択した場合は、スライドショーが実行されます。

5.各メニュー項目ごとの設定方法にしたがって内容を選択します。（P.88～）

● メニュー項目選択画面では、十字キーの左側を押すとメニューが終了し、通常の再生画面へ戻ります。シャッターボタンの半押しでも戻ることができます。

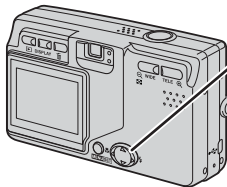
メニュー項目選択画面

9コマまでの画像を一度に表示します（P.88）。
撮影した画像を別のメディアへコピーします（P.88）。
画像を消去します（P.92）。
液晶モニターの明るさと色合いを調整します（P.96）。
プリントする画像や枚数などを指定します（P.97）。

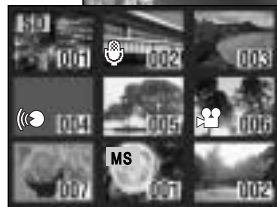
撮影した画像のサイズを小さくしたものを作ります（P.106）。
画像を間違って消去しないようにします（P.108）。
撮影した画像を別のメディアへ移動させます（P.112）。
画像を自動的に再生します（P.115）。
すでに記録されている画像に音声を付けます（P.116）。

セットアップメニュー画面を表示します（P.118）。

インデックス再生

9コマ分を一度に液晶モニターに表示できます。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「インデックス」を反転させ、十字キーの右側を押します。

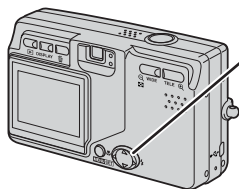
● メニューを使わずに、ズームボタンの左（WIDE）側を押してインデックス画面を表示することもできます。→P.82

● インデックス画面の表示内容はP.82をご覧ください。

画像のコピー

複数のメディアを使用している場合、片方のカードスロットに入っているカードから、もう片方のカードに画像や音声をコピーすることができます。メモリースティックとSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）がそれぞれのカードスロットに入っている必要があります。

※カードの入れ方については→P.24

設定内容

コピー	コピー元とコピー先を指定します。
SD→MS	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）からメモリースティックへコピーします。
MS→SD	メモリースティックからSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）へコピーします。
単位	コピー元のメディアからコピーするコマを指定します。
選択コマ	指定した画像だけをコピーします。
全コマON	選択メディア内の画像すべてをコピーします。

1.P.86の要領で、PLAY(再生)メニューから「コピー」を選択し、十字キーの右側を押します。

2.「コピー」が選択されている状態で、十字キーで右へ移動、上下で希望のメディアを選択し、キーの右側を押して決定します。

3.十字キーの下側で「単位」に移動します。「単位」についても、2.の要領で設定内容を決定します。

4.上の2つの項目について設定が完了したら、十字キーの上下で「実行する」を選択し、右側を押して実行します。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→5.に進んでコマを指定後、6.の確認画面へ

「全コマON」の場合→6.の確認画面へ

●設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

次ページへ続く

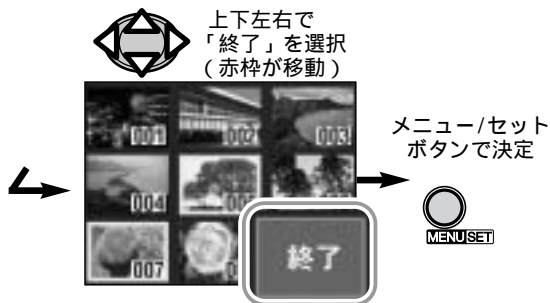
5.「単位」の項目で「選択コマ」を設定した場合、十字キーでコピーするコマを選択し、メニュー/セットボタンで決定します。

上下左右で
画像を選択
（赤枠が移動）

メニュー/セット
ボタンで
決定

MENU SET

選択された画像は、黄枠で囲まれます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

「終了」の位置で十字キーの右側を押すと、次の画面へ移ります。

●一度選択した画像を取り消すには、十字キーで赤枠をその画像まで移動させます。メニュー/セットボタンを押すと指定が解除されます。

6.確認後、実行します。

左右で
選択

メニュー/セット
ボタンで
実行

●「いいえ」を選択した場合、それまでの設定はキャンセルされます。

● 画像はコピー先のメディアの一番最後にコピーされます。

● プロテクトされた画像をコピーした場合、コピーされた画像にはプロテクトがかかっていません。

● 指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、コピー先のメディアにコピーできない場合は「メモリーがいっぱいです」のメッセージが表示されます。このような場合でも一部はコピーされる場合もあります。

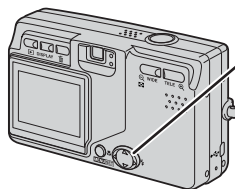
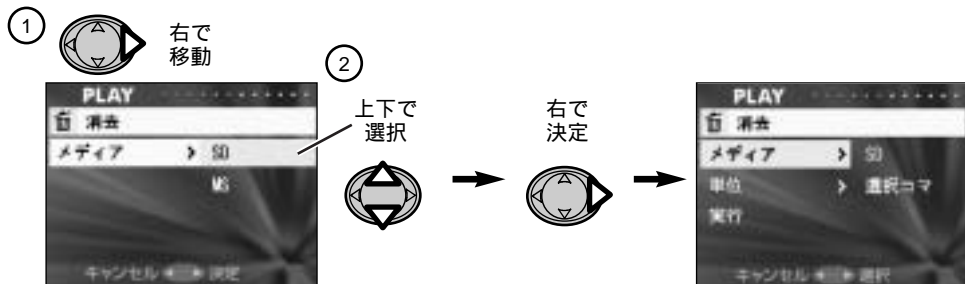
画像の消去

画像を消去できます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

設定内容

メディア	消去の対象となるカードを選択します。カードが入っていない場合は選択できません。
SD	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）内の画像が消去の対象になります。
MS	メモリースティック内の画像が消去の対象になります。
単位	対象メディアから、消去するコマを指定します。
選択コマ	指定した画像だけを消去します。
全コマON	選択メディア内の画像すべてを消去します。

※消去ボタンを使って1コマ、全コマを手早く消去する方法もあります。→P.85

1.P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「消去」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.「メディア」が選択されている状態で、十字キーで右へ移動、上下で希望のメディアを選択し、キーの右側を押して決定します。

3.十字キーの下側で「単位」に移動します。「単位」についても、2.の要領で設定内容を決定します。

4.上の2つの項目について設定が完了したら、十字キーの上下で「実行」を選択し、右側を押して実行します。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→5.に進んでコマを指定後、6.の確認画面へ

「全コマON」の場合→6.の確認画面へ

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

画像の消去

次ページへ続く

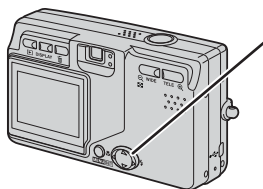
5.「単位」の項目で「選択コマ」を設定した場合、十字キーで消去するコマを選択し、メニュー/セットボタンで決定します。

- 一度選択した画像を取り消すには、十字キーで赤枠をその画像まで移動させます。メニュー/セットボタンを押すと指定が解除されます。

6.確認後、実行します。

●「いいえ」を選択した場合、それまでの設定はキャンセルされます。

液晶モニターの明るさ・色調整

REC（撮影）メニューの液晶モニターの明るさ・色調整（P.64）をPLAY（再生）メニューでも行うことができます。

1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「モニター調整」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. P.64の2.以降に従って調整を行ってください。

画像のプリント

プリントする方法について

撮影した画像は様々な方法でプリントすることが可能です。

1. ご自分のプリンタで印刷する。

画像をパソコンに取り込んでそこから印刷できます（パソコンとの接続に関しては P.144〜)。プリンタによっては、パソコンを介さずに直接カードから印刷したり（P.98)、カメラとプリンタをUSBケーブルで接続するだけで印刷できるものもあります（PictBridge→ P.102)。

2. ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する

カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントできます。
DPOF対応のプリント店では、プリント（DPOF）指定を利用できます。
お店によっては、フォルダ番号とファイル番号でどの画像を何枚プリントするかを指定する場合もあります。

フォルダ番号ーファイル番号

3. ネットプリントを利用する

インターネットを介してプリントの依頼をすることができます。Windowsパソコンをお持ちのかたは、付属の CD-ROMからアクセスすることができます（→ P.164)。

ここでは、より便利にプリントする方法の1つとしてプリント（DPOF）指定と、カメラとプリンタを直接USBケーブルでつないでプリントする方法（P.102）を紹介します。

プリント（DPOF）指定

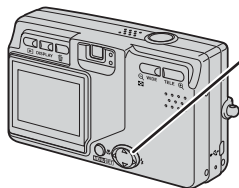
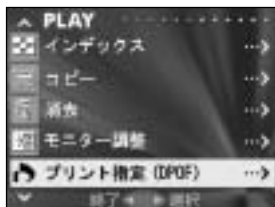
プリント（DPOF）指定とは、撮影した画像をご自分のプリンタでプリントする場合や、プリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことです。

● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。撮影した画像の中から、プリントしたいコマや枚数等の指定情報を記録メディアに記録するフォーマットのこと。

● 1コマにつき最大999枚まで指定ができます。
● デート印字指定も可能です。
● プリント（DPOF）指定の解除もできます。
● ムービーのプリント（DPOF）指定はできません。
● 他のデジタルカメラでプリント（DPOF）設定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

設定内容

メディア	プリント（DPOF）指定（または解除）の対象となるカードを選択します。カードが入っていない場合は選択できません。
SD	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）内の画像が対象になります。
MS	メモリースティック内の画像が対象になります。
単位	プリントするコマを指定（または解除）します。以下の2通りの方法があります。
選択コマ	指定した画像だけをプリント（DPOF）指定します。選択コマだけ解除する場合にも使用します。
全コマON	選択メディア内の画像すべてをプリント（DPOF）指定します。
全コマOFF	選択メディア内のプリント（DPOF）指定された画像すべてを指定解除します。
デート	プリントする際に、プリンタで撮影した日時を印字する指示をカメラで行うことができます。日時の入る場所（画面内／画面外、サイズ等）はお使いのプリンタによって異なります。また、プリンタによっては、この機能に対応していないものもあります。
全コマON	選択メディア内の画像すべてを印字指定します。
全コマOFF	選択メディア内のプリント指定された画像すべてについて印字指定解除します。

1. P.86の要領で、PLAY(再生)メニューから「プリント指定(DPOF)」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.「メディア」が選択されている状態で、十字キーで右へ移動、上下で希望のメディアを選択し、キーの右側を押して決定します。

3.十字キーの下側で「単位」に移動します。「単位」、についても、2.の要領で設定内容を決定します。「デート」も同様に設定を行います。

「単位」で「全コマOFF」を選んだ場合→P.101の「プリント指定の解除」へ

4.上の3つの項目について設定が完了したら、十字キーの上下で「実行する」を選択し、右側を押して実行します。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→5.に進んでコマと枚数を指定後、6.の確認画面へ

「単位」で「全コマON」を選んだ場合→6.の確認画面に進んで枚数を指定

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

次ページへ続く

5.「単位」の項目で「選択コマ」を設定した場合、プリント（DPOF）指定するコマと枚数を以下の要領で決定します。

上下左右で
画像を選択
（赤枠が移動）

左側で
枚数を
指定（減らす）

WIDE　TELE

右側で
枚数を
指定（増やす）

メニュー/セット
ボタンで
決定

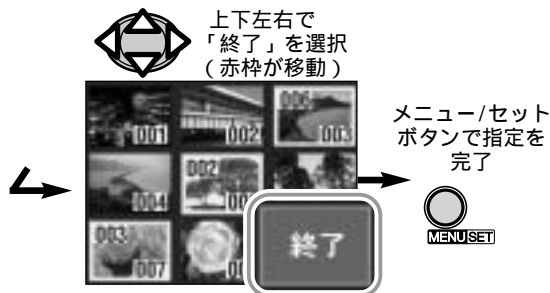
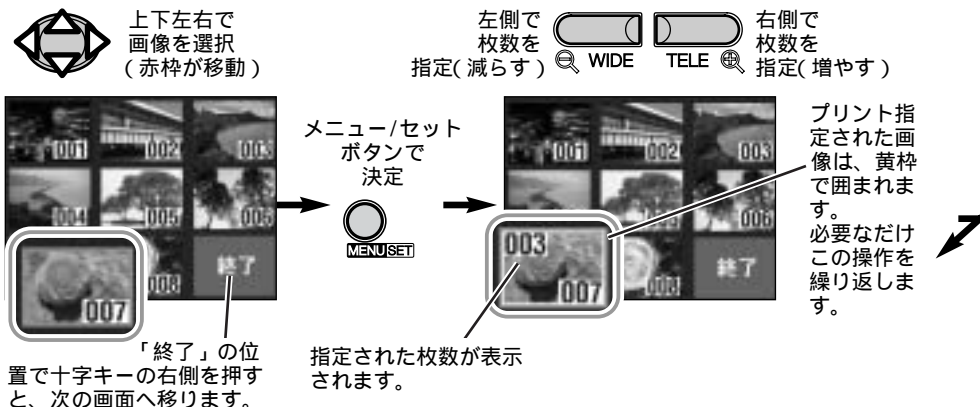
MENU SET

プリント指定された画像は、黄枠で囲まれます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

「終了」の位置で十字キーの右側を押すと、次の画面へ移ります。

指定された枚数が表示されます。

メニュー/セット
ボタンで指定を
完了

MENU SET

● 一度指定した内容を変更するには、十字キーで赤枠をその画像まで移動させます。メニュー/セットボタンを押すと指定が解除されます。ズームボタンで枚数が変更できます。

6.確認後、実行します。（全コマONの場合は実行の前に枚数を指定します。）

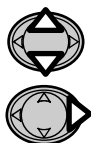
「全コマON」を選択した時の画面

●「全コマON」の場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません。

●「いいえ」を選択した場合、それまでの設定はキャンセルされます。

● プリント指定後に撮影した画像は、プリント（DPOF）指定されていません。

●前ページ５でコマを指定した後、ズームボタンでプリント枚数を指定せずにメニュー/セットボタンを押すと、６の画面でまとめて同じ枚数を指定することができます。

プリント指定の解除（全コマOFF）

1.P.99の1～3で「全コマOFF」を選択後、十字キーの上下で「実行する」を選択し、右側を押して実行します。

2.確認後、解除します。

PictBridge対応プリンタでの印刷

PictBridge*（ピクトブリッジ）対応のプリンタをお使いの場合、カメラとプリンタを直接USBケーブルで接続してプリントを行うことができます。パソコンを使わないので、手軽にプリントが楽しめます。

* PictBridge=デジタルカメラで撮影した画像を、パソコンを使わずに印刷するための規格。これに対応しているカメラとプリンタであれば、メーカーを問わず、カメラから直接印刷することが可能。

- 印刷指定できる画像の数は、最高50コマです。
- ムービーの印刷はできません。（プリンタと接続しても表示されません。）
- プリントの途中でカメラの電池がなくなると印刷は中断されます。電池をフル充電するか、別売りのACアダプタ ーAC-8Uの使用をおすすめします。

カメラとプリンタの接続

接続の前に、セットアップメニューの「USB接続」の設定を「PictBridge」にしてください（→P.143）。

2つのメディアを同時にプリンタに認識させることはできません。カメラに2枚のカードが挿入されている場合、セットアップメニューの「優先メモリー」の設定が、プリントしたい画像が記録されている方のメディアになっている必要があります（→P.132）。

- 認識させたいメディアの容量がいっぱいの時など、優先メモリーがもう片方のメディアに自動的に切り替わる場合があります。希望のメディアを設定するには、使用しない方のカードを取り外してください。

1.プリンタの電源を入れます。

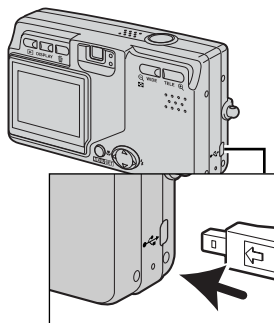
2.プリンタ側で用紙設定などを行う場合は、プリンタの設定を行います。

- 詳しい設定方法については、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

3.カメラの電源を切り、カードを入れます。

- 優先メモリーが正しく設定されていることを確認してください。

4.付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

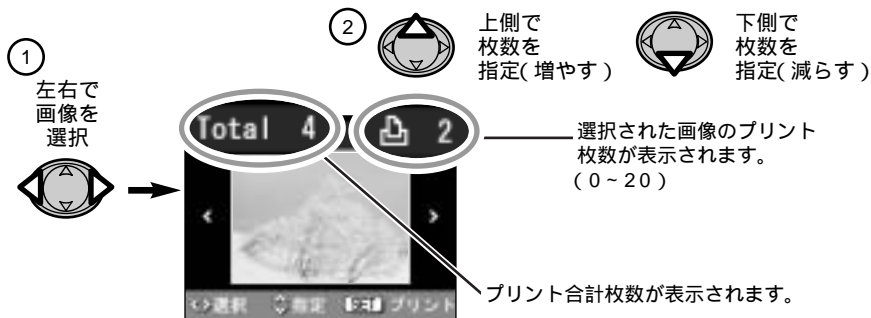
- プリンタ内蔵のポートに直接つないでください。USBハブを経由して接続すると正常に動作しない場合があります。

5. 付属のUSBケーブルの小さいほうのコネクタを、カメラのUSB出力端子に差し込みます。

- ⇐マークをカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。
- 「USB接続中」のメッセージが現れた後、PictBridgeの画面になります。

プリント方法

カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定を行うことができます。

1. 十字キーでプリントする画像と各コマの枚数を指定します。

- その画像を1枚だけプリントする場合は、プリントする画像を選んだ後、枚数を指定せずに、直接、3の操作で、メニュー/セットボタンを押してください。

- 51コマ目の画像を選択しようとすると、「画像が多すぎます。50コマまでに指定し直してください。」のメッセージが現れます。指定する画像の数を50コマ以下に減らしてください。

次ページへ続く

2.必要なだけ、1の操作を行います。

3.メニュー/セットボタンを押します。

●専用用紙があるプリンタなど、選択できる用紙サイズが1種類しかない場合は、次の画面は表示されず、すぐにプリントが始まります。

4.十字キーの上下で用紙サイズを選択します。

●選択できる用紙サイズはプリンタによって異なる場合があります。

主な用紙サイズ	大きさ
プリンタ設定	プリンタの設定に従います
L	89 x 127mm
はがき	100 x 148mm
2L	127 x 178mm
A4	210 x 297mm

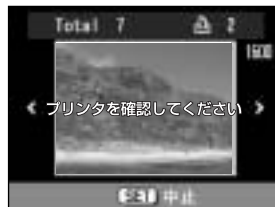
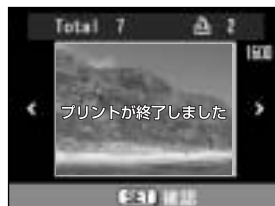
5.メニュー/セットボタンを押します。

●プリントが始まります。

●プリント中は上の画面が表示されます。

6.右の画面が現れたら、メニュー/セットボタンを押してプリントを終了させます。

● カメラを取り外す場合は、プリンタの電源を切ってUSBケーブルを外してください。

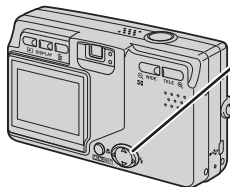
● 右のメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできません。メニュー/セットボタンを押していったんプリントを中止してください。

● プリント中や上記エラーメッセージ表示中にメニュー/セットボタンを押すと、プリントは途中で中止され、「プリントを中止しました」というメッセージが現れます。プリントを中止する場合はUSBケーブルを外してください。再度プリントする場合は、再度P.102の手順にしたがってプリントを行ってください。

リサイズ

撮影した画像の画像サイズを小さくすることができます。Eメールに画像を添付するのに便利です。元の画像はそのまま残ります。

● ムービー画像や、すでにリサイズした画像をリサイズすることはできません。

設定内容

サイズ	リサイズした後の画像サイズを選択します。
VGA	640×480にリサイズします。
QVGA	320×240にリサイズします。

1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「リサイズ」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. VGAが選択されています。十字キーの上下で希望の設定を選択し、キーの右側を押して決定します。

上下で
選択

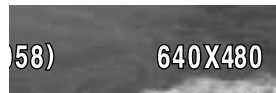
右側で
決定

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

3. 十字キーの左右で、リサイズしたい画像を選択します。

● 操作を取り止めてメニュー項目選択画面に戻るには、十字キーの上下で「戻る」を選択し、メニュー/セットボタンを押します。

4. メニュー/セットボタンを押して、実行します。

● リサイズされた画像は、メディア内の最後尾に記録されます。リサイズ画像を再生すると、圧縮率の表示がありません。

リサイズ

リサイズすると、

● プロテクトされた画像をリサイズした場合、リサイズされた画像にはプロテクトがかかっていません。

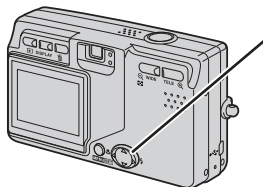
● アフレコ音声付きの画像をリサイズしても音声は附随しません。

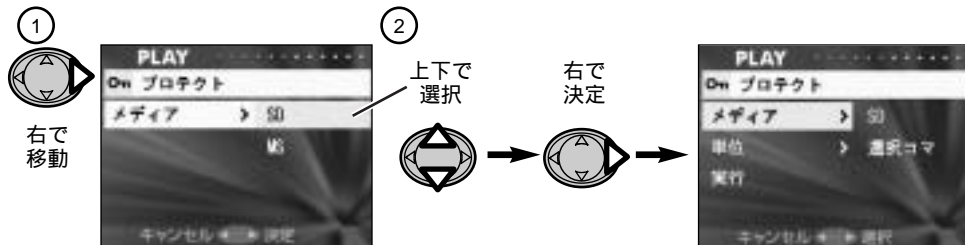
● リサイズした画像を保存するだけの容量がカードにない場合は「メモリーがいっぱいです」のメッセージが表示されます。

プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像や音声をロックし、間違って消去しないようにすることができます。プロテクトを取り消すこともできます。

設定内容

メディア	プロテクト（またはプロテクト解除）の対象となるカードを選択します。カードが入っていない場合は選択できません。
SD	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）内の画像が対象になります。
MS	メモリースティック内の画像が対象になります。
単位	対象メディアから、プロテクトするコマの指定方法を選択します。
選択コマ	指定した画像だけをプロテクトします。選択コマだけ解除する場合にも使用します。
全コマON	対象メディア内の画像すべてをプロテクトします。
全コマOFF	対象メディア内のプロテクト画像すべてをプロテクト解除します。

1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「プロテクト」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2.「メディア」が選択されている状態で、十字キーで右へ移動、上下で希望のメディアを選択し、キーの右側を押して決定します。

3.十字キーの下側で「単位」に移動します。「単位」についても、2.の要領で設定内容を決定します。

4.「メディア」、「単位」について設定が完了したら、十字キーの上下で「実行」を選択し、右側を押して実行します。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→5.に進んでコマを指定後、6.の確認画面へ

「全コマON」の場合→6.の確認画面へ

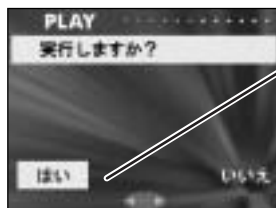
「全コマOFF」の場合→P.111の「プロテクトの解除」へ

●設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

次ページへ続く

5.「単位」の項目で「選択コマ」を設定した場合、十字キーでプロテクトするコマを選択し、メニュー/セットボタンで決定します。

● 一度指定したプロテクトを取り消すには、十字キーで赤枠をその画像まで移動させます。メニュー/セットボタンを押すと指定が解除されます。

6.確認後、実行します。

●「いいえ」を選択した場合、それまでの設定はキャンセルされます。

● 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに 🔑 が表示されます。

プロテクトの解除（全コマOFF）

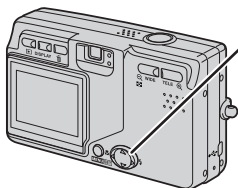
P.109 3の「単位」で「全コマOFF」を選んで実行した場合、以下の確認画面が表示されます。確認後、解除します。

画像の移動

複数のメディアを使用している場合、片方のカードスロットに入っているメディアから、もう片方のメディアに画像や音声を移動することができます。

- メモリースティックとSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）がそれぞれのカードスロットに入っている必要があります。 ※カードの入れ方については→P.24
- プロテクトされている画像は先にプロテクトを解除してください。 ※プロテクトの解除方法は→P.111

設定内容

移動	移動元と移動先を指定します。
SD→MS	SDメモリー（またはマルチメディア）カードからメモリースティックへ移動します。
MS→SD	メモリースティックからSDメモリー（またはマルチメディア）カードへ移動します。
単位	移動元のメディアから移動するコマを指定します。
選択コマ	指定した画像だけを移動します。
全コマON	選択メディア内の画像すべてを移動します。

1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「移動」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 「移動」が選択されている状態で、十字キーで右へ移動、上下で希望のメディアを選択し、キーの右側を押して決定します。

3.十字キーの下側で「単位」に移動します。「単位」についても、2.の要領で設定内容を決定します。

4.上の2つの項目について設定が完了したら、十字キーの上下で「実行する」を選択し、右側を押して実行します。

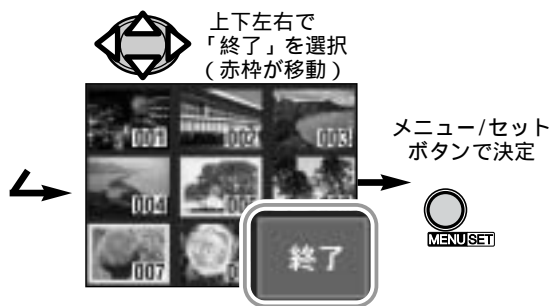
「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→5.に進んでコマを指定後、6.の確認画面へ

「全コマON」の場合→6.の確認画面へ

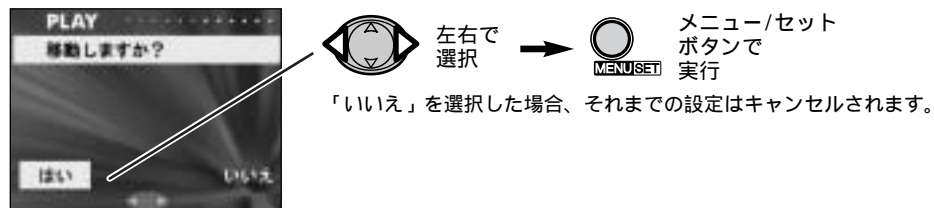
● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、前の画面に戻ります。

画像の移動

5.「単位」の項目で「選択コマ」を設定した場合、十字キーで移動するコマを選択し、メニュー/セットボタンで決定します。

次ページへ続く

● 一度選択した画像の移動を取り消すには、十字キーで赤枠をその画像まで移動させせます。メニュー/セットボタンを押すと指定が解除されます。

6.確認後、実行します。

●「いいえ」を選択した場合、それまでの設定はキャンセルされます。

● 画像は、新しいファイル番号で、移動先のカードの一番最後に移動します。

● 指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、移動先のカードに移動できない場合は「メモリーがいっぱいです」のメッセージが表示されます。このような場合でも一部は移動される場合もあります。

スライドショー（画像の自動再生）

記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。すべての画像が最初から順に2秒ずつ表示されます。

● スライドショー中、動画は最初の画像のみ再生されます。

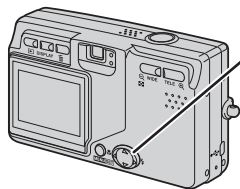
1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「スライドショー」を反転させ、十字キーの右側を押します。

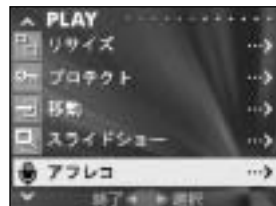
十字キーの右側を押すとすぐにスライドショーが開始します。

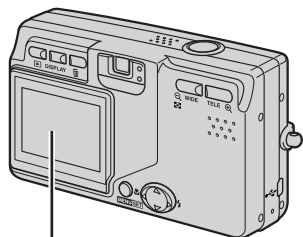
● スライドショー中に十字キーの左右を押すと、次の画像にコマ送りされます。
● スライドショーを途中で終えるときは、メニュー/セットボタンを押します。押した時点での画像が１コマ再生されます。

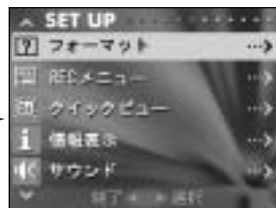
● 複数のメディアを使用している場合、スライドショーは最新画像が入っていない方のメディアの最も古い画像から開始されます。
● すべての画像を再生し終えると、最終コマでスライドショー再生が止まります。

アフレコ

REC（撮影）メニューのアフレコ操作をPLAY（再生）メニューでも行うことができます。詳細は66〜67ページをご覧ください。

1. P.86の要領で、PLAY（再生）メニューから「アフレコ」を反転させ、十字キーの右側を押します。

- 撮影済みの画像が表示されます。
- 操作を取り止めて前の画面に戻るには、メニュー/セットボタンを押します。

2. P.66の2.以降に従って、アフレコを行ってください。

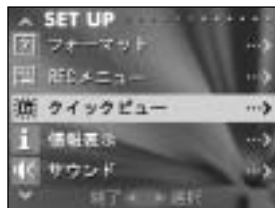
セットアップ

REC（撮影）メニューまたはPLAY（再生）メニューの項目選択画面から「セットアップ」を選択すると、セットアップモードになります。セットアップメニュー画面では、カメラ全体の操作に関わる設定を変更することができます。

セットアップメニュー画面

セットアップメニュー

REC（撮影）メニュー、PLAY（再生）メニューのどちらのモードからでもセットアップメニューを表示させることができます。ここではメニュー項目の選択方法までを説明しています。選択できるメニュー項目は次ページの通りです。各メニューの詳細設定については、それぞれのページをご覧ください。

1.REC（撮影）またはPLAY（再生）メニュー項目選択画面が表示されている時に、十字キーの上下で「セットアップ」を指定し、キーの右側を押して選択します。

2.セットアップメニューの項目選択画面が現れます。十字キーの上下で希望のメニュー項目を反転させます。

●最上段、最下段の項目が反転している時にキーを押すと、次のメニュー項目画面が表示されます。

3.十字キーの右側で反転させたメニュー項目を選択します。

●各項目の設定画面が現れます。

4.各メニュー項目ごとの設定方法にしたがって内容を選択します。（P.120～）

●メニュー項目選択画面では、十字キーの左側を押すとメニューが終了し、REC（撮影）またはPLAY（再生）メニュー（はじめにセットアップメニューに入った時の画面）に戻ります。

●シャッターボタンの半押しで、通常の撮影または再生画面に戻ることもできます。

メニュー項目選択画面

カードをフォーマットします（P.120）。
REC（撮影）メニューの項目を最小限にします（P.121）。
撮影したばかりの画像を自動的に表示します（P.122）。
撮影画像や再生画像の情報の表示・非表示を切り替えます（P.123）。
操作音や警告音、シャッター音の有り無しを切り替えます（P.124）。

日時を修正したり、年月日の並びを変更します（P.125）。
セルフタイマーの時間を変更します（P.126）。
節電のため、カメラの電源が切れるまでの時間を変更します（P.127）。
ファイル番号を0001からつけ直します（P.130）。
2種類のメディアのうち、優先させる方を切り替えます（P.132）。

液晶モニターの表示言語を変更します（P.132）。
撮影済みの画像に音声を付けるタイミングを切り替えます（P.133）。
操作部材に割り当てられる機能を変更します（P.134、140）。
カメラのほとんどの機能をお買い上げ時の設定に戻します（P.141）。
プリンタにUSB接続するかパソコンに接続するかを選びます（P.143）。

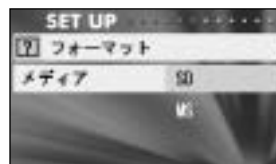
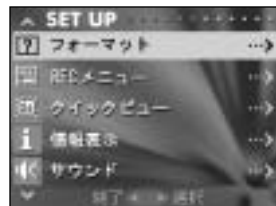
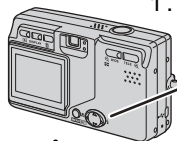
カードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

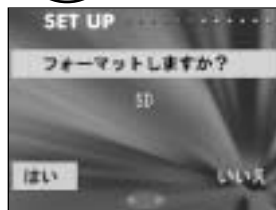
設定内容

◎は初期設定値です。

メディア　フォーマットの対象となるカードを選択します。カードが入っていない場合は選択できません。
◎SD　SDメモリー（またはマルチメディア）カード内の画像が対象になります。
MS　メモリースティック内の画像が対象になります。

1.フォーマットするカードをカメラに入れます。

2.P.118の要領で、セットアップメニューから「フォーマット」を反転させ、十字キーの右側を押します。

3.十字キーの上下でフォーマットしたいメディアを選択し、キーの右側を押して決定します。

●設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

4.十字キーとメニュー/セットボタンでカードのフォーマットを行ないます。

●「いいえ」を選択するとフォーマットはされません。

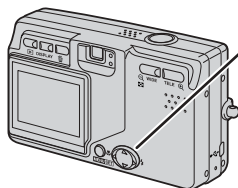
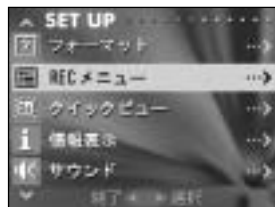
●フォーマット中は赤ランプが点灯します。カードを抜かないで（電池室/カードスロットふたを開かないで）ください。

●カードのフォーマットはこのページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラでカードが認識できないことがあります。

REC（撮影）メニューを簡潔にする

REC（撮影）メニューで選択する設定内容を最小限にできます。

設定内容　◎は初期設定値です。

REC（基本）	RECメニューの内容が基本的な設定に絞られます。メニュー項目は、記録画素数、ムービー、モニター調整、セットアップの4つになります。また、記録画素数の設定内容は、サイズのみになります。基本的なメニュー項目について頻繁に設定変更する場合に便利です。
◎REC（応用）	通常のRECメニュー全項目が選択できます。　※項目の内容については→P.48

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「RECメニュー」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

- 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

以下の設定はREC（基本）モードでは固定され、REC（応用）モードに戻ってもそのままです。

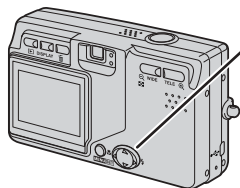
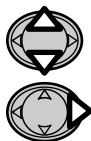
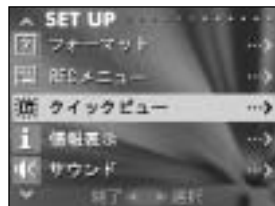
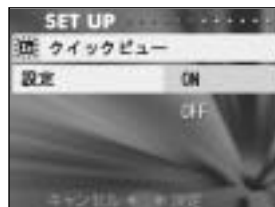
圧縮率（NORMAL)、露出補正（±0)、ホワイトバランス（AUTO)、測光方式（中央重点)、モノクローム設定（OFF)、デジタルズーム（OFF)、マニュアル露出（OFF)、スローシャッターの有無（OFF)、画質設定の有無（OFF)

※（　　）内の設定に固定されます。

クイックビュー

撮影直後に、撮影した画像を液晶モニターに表示させることができます。

設定内容　◎は初期設定値です。

ON	**撮影直後の約3秒間、撮影した画像を液晶モニターに表示させます。**
◎OFF	**撮影後即、通常の撮影画面に戻ります。**

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「クイックビュー」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

- **設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。**
- **3秒間の表示中にシャッターボタンを半押しすると、クイックビュー表示がキャンセルされます。**
- **液晶モニター消灯中は、一時的にモニターが点灯しクイックビューが表示されます。クイックビュー表示後に液晶モニターは消灯します。**
- **シャッターボタンを押し続けて連続撮影する場合は、クイックビューが表示されてから次のコマのシャッターが切れます。**

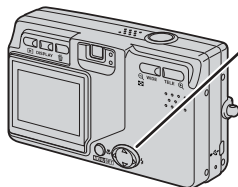
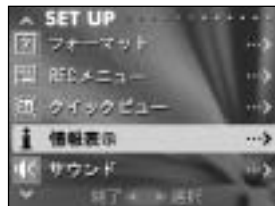
情報表示

撮影画像や再生画像の情報を、液晶モニターに表示するかしないかを切り替えることができます。通常、ディスプレイボタンで情報表示を無しに設定しても、電源を入れ直した後は、情報が表示されますが、セットアップメニューの情報表示設定では、電源を入れ直した後も非表示のままにしておくことができます。

※ディスプレイボタンでの情報表示切り替え→P.42（撮影時）、P.81（再生時）
※液晶表モニター表示内容について→P.16

設定内容

◎は初期設定値です。

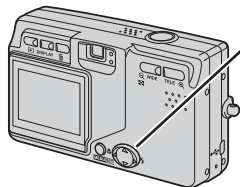
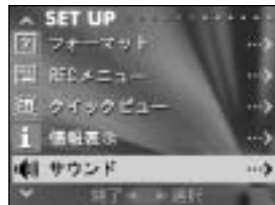
◎ON　情報を表示させます。
OFF　情報を表示させません。電源を入れ直した後も非表示のまま保持されますので、常時非表示で使用したい場合に便利です。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「情報表示」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

●設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

サウンド設定

操作音や警告音、シャッター音の有り無しを切り替えることができます。

設定内容　◎は初期設定値です。

ビープ音	セルフタイマーのカウント中に出る音や、警告音の有り無しを選択します。
◎ON・OFF	ビープ音を鳴らす(ON）または鳴らさない（OFF）に設定します。
効果音	電源を入れた時の音やピントが合った時にお知らせする音など、効果音の有り無しを選択します。
◎ON・OFF	効果音を鳴らす(ON）または鳴らさない（OFF）に設定します。
シャッター音	シャッターを切った時に出る音の有り無しを選択します。
◎ON・OFF	シャッター音を鳴らす(ON)または鳴らさない(OFF)に設定します。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「サウンド」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の音を選択、右へ移動し、上下で「ON」「OFF」を選択、右側を押して決定します。

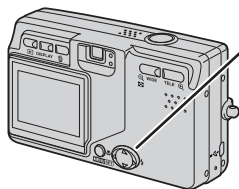
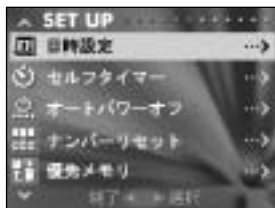
● 下記は「ビープ音」を選択した場合の画面ですが、「効果音」、「シャッター音」についても、同じ方法で設定内容を決定できます。

右側で
決定

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされます。

● 決定後に十字キーの左側を押すと、設定が終了し、メニュー項目選択画面に、シャッターボタンを半押しすると、通常撮影（または再生）画面に戻ります。

日時設定

日時、年月日の修正が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「日時設定」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. P.31の4～7の要領で、日時設定をしてください。

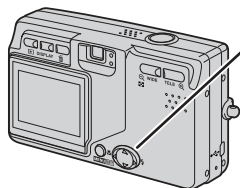
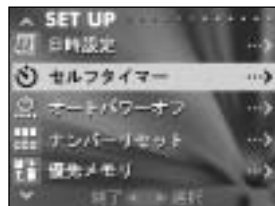
● セットアップメニューによる日時設定では、設定途中にシャッターボタンを半押しすると、日時設定操作をキャンセルできます。

セルフタイマーの時間変更

シャッターボタンを押してから撮影までの時間を変更できます。

設定内容

◎は初期設定値です。

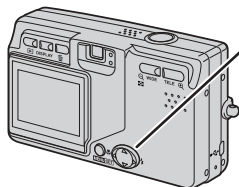
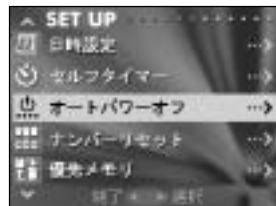
◎10秒	**10秒後に撮影されます。撮影者が写真に入るのに便利です。**
3秒	**3秒後に撮影されます。シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。**

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「セルフタイマー」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

- **設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。**
- **「10秒」設定では、セルフタイマーモードは撮影後に解除されますが、「3秒」設定は、撮影後も保持されます。**

オートパワーオフまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、カメラの電源が切れます（オートパワーオフ →P.29）。このオートパワーオフまでの時間を変更することができます。

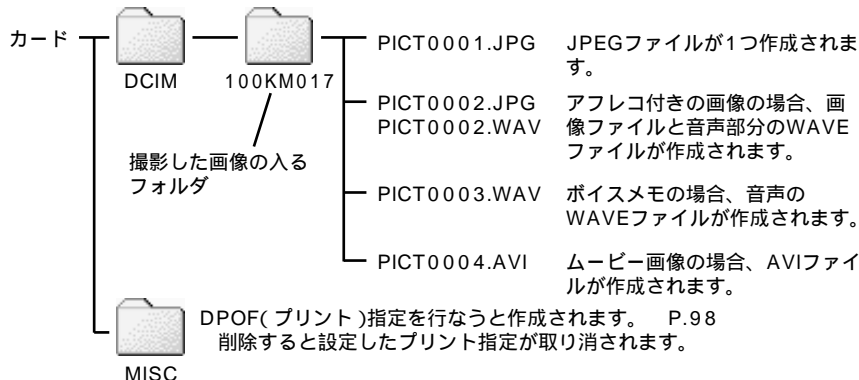
設定内容　◎は初期設定値です。

◎3分	3分後にオートパワーオフが働きます。
10分	10分後にオートパワーオフが働きます。
OFF	オートパワーオフは働きません。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「オートパワーオフ」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。パソコンに接続すると見ることができます。→P.144

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例： 100 KM017

フォルダ番号（100～）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の "KM" はコニカミノルタを、"017" はこのカメラ（DiMAGE G600）を表します。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.144～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.120）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）
（0001～）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。カメラの初期設定では、カード内の全画像を消去したり、新しいカードやフォルダに切り替わった後も連番は続きます。SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）とメモリースティックを交互に切り替えて撮影していた場合もファイル名は交互に連番で付加されます。また、移動した画像（P.112）にも新しく連番のファイル番号が付きます。

- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "101KM017" ）ます。
- ファイル番号を0001から開始し直すことができます（→ナンバーリセット、P.130）。
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

ナンバーリセット

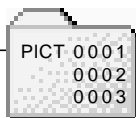
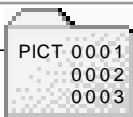
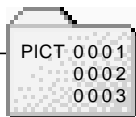
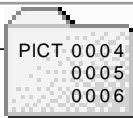
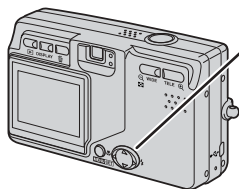
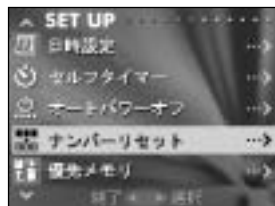
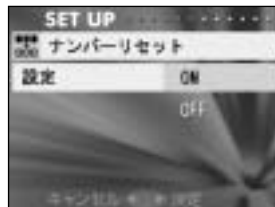
液晶モニター左上にある4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。ナンバーリセットでは、ファイル番号を0001からつけ直すことができます。新しいカードに切り替えた時や、カード内の全コマを消去した後に、ファイル番号を0001に戻したい時に便利です。

● カードの中にこのカメラで撮影した画像が入っていると、ナンバーリセットができません。

設定内容

◎は初期設定値です。

ON	ナンバーリセットが機能します。このカメラで撮影した画像がカードに入っていない時に撮影をすると、画像のファイル番号は0001になります。
◎OFF	ナンバーリセットが機能しません。ファイル番号はそのまま続きます。

イメージ図(新しいカードに切り替えた場合）

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「ナンバーリセット」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

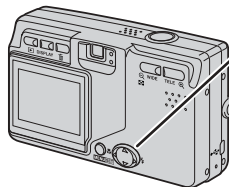
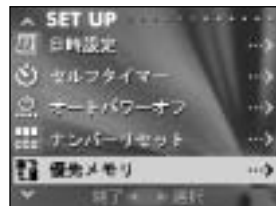
優先メモリーの切り替え

SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）と、メモリースティックをカメラに入れた場合、どちらのメディアから先に記録するか（優先メモリー）を切り替えます。パソコンやプリンタと接続した場合は、優先メモリーが認識されます。

※優先メモリー→P27

●優先メモリーの切り替えは、カードが両方のメディアに入っている状態で行ってください。

設定内容　◎は初期設定値です。

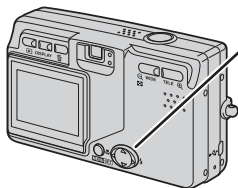
◎SD　SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）から先に記録します。
MS　メモリースティックから先に記録します。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「優先メモリー」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

●設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

言語設定

液晶モニターに表示される言語を、4カ国語の中から選ぶことができます。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎日本語	日本語	FRANCAIS	フランス語
ENGLISH	英語	DEUTSCH	ドイツ語

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「言語」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. P.30の2〜3の要領で、言語設定をしてください。

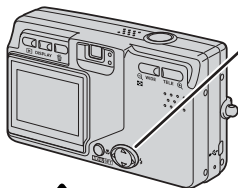
アフレコ設定

アフレコでは、撮影した静止画に音声を付けることができますが、このアフレコのタイミングを変更することができます。 ※アフレコ→P.66

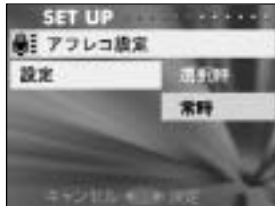
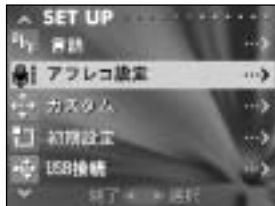
設定内容

◎は初期設定値です。

◎選択時　撮影をいったん終了し、後から画像を呼び出して音声を付けます。メニューからアフレコを選択し、特定の画像にのみアフレコを行います。

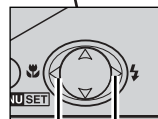
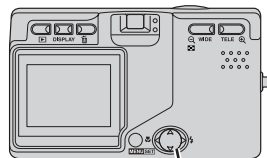
常時　毎回撮影時にアフレコを行います。シャッターを切ると自動的にアフレコ画面が現れますので、メニューからアフレコを選択する必要はありません。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「アフレコ設定」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

カスタム（十字キー）

初期設定では、十字キーにはフラッシュモードと撮影モードが割り当てられています。カスタム機能では、十字キーに割り当てられる機能を追加したり、制限したりすることができます。ホワイトバランスはREC（撮影）メニューで設定ができますが、十字キーを使うと液晶モニターの画像を確認しながら行うことができるので便利です。露出補正は十字キーを使って瞬時に行えます。ピントや露出を固定して撮影をしたい時も、カスタムで機能を有効にしておきます。連写モードについては、P.140をご覧ください。

設定内容

◎は初期設定値です。

フラッシュ　　フラッシュモードの割り当てを個別に変更します。

	設定	
AUTO	◎ON・ OFF	自動発光
(赤目)	◎ON・ OFF	赤目軽減自動発光
(強制)	◎ON・ OFF	強制発光
(夜景)	◎ON・ OFF	夜景ポートレート
(禁止)	◎ON・ OFF	発光禁止

十字キー右側へ、それぞれモードを割り当てる（ON）、割り当てない（OFF）

※→P.43　フラッシュモード

マクロ　　撮影モードの割り当てを個別に変更します。

	設定	
AUTO	◎ON・ OFF	AUTO（オート）
(マクロ)	◎ON・ OFF	マクロ
(遠景)	◎ON・ OFF	遠景
(セルフタイマー)	◎ON・ OFF	セルフタイマー
(マクロ)(セルフタイマー)	◎ON・ OFF	マクロ＋セルフタイマー
(遠景)(セルフタイマー)	◎ON・ OFF	遠景＋セルフタイマー
4m	ON・◎OFF	4m先の被写体にピントを固定
2m	ON・◎OFF	2m先の被写体にピントを固定
1m	ON・◎OFF	1m先の被写体にピントを固定

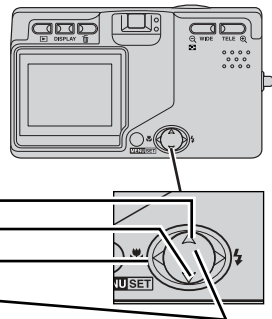
十字キー左側へ、それぞれモードを割り当てる（ON）、割り当てない（OFF）

※→P.44　撮影モード

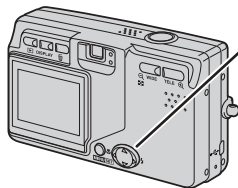
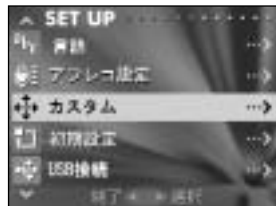
AF AE AWB 露出補正・ホワイトバランス・AFロック・AEロック機能を下記の通り割り当てます。

	ON・◎OFF	露出補正を十字キー上側へ
	ON・◎OFF	ホワイトバランスを十字キー下側へ
	ON・◎OFF	AFロックを十字キー左側*へ
	ON・◎OFF	AEロックを十字キー上側*へ

*シャッターボタン半押し時

ON: 割り当てる
OFF: 割り当てない

※十字キーでの露出補正方法→P.137
※十字キーでのホワイトバランス設定方法→P.137
※AFロック→P.138
※AEロック→P.139

連写モードについてはP.140をご覧ください。

ここでは、「フラッシュ」、「マクロ」、「AF AE AWB」の設定方法を説明します。連写の設定方法についてはP.140をご覧ください。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「カスタム」を反転させ、十字キーの右側を押します。

次ページへ続く

2. 十字キーの上下で、十字キーに割り当てたい機能を選択し、右側を押して決定します。

● 下記は機能「フラッシュ」を選択した場合の画面ですが、「マクロ」、「AF AE AWB」についても、同じ方法で設定内容を決定できます。

3. 2で選択した機能の各モードを十字キーの上下で選び、右側で「ON」または「OFF」にします。

● 下記はフラッシュの「AUTO（自動発光）」モードを「OFF」にした場合の画面です。

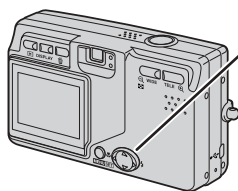
● ⚡が反転している時に下側を押すと、[赤目軽減]、[発光禁止]についても設定できます。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

● 押すたびに「ON」「OFF」が切り替わります。

● シャッターボタンを半押しして、通常撮影（または再生）画面に戻ることもできます。

十字キーでの露出補正

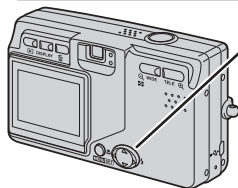
メニューでの設定同様、－1.5～＋1.5の範囲で0.3段ごとに補正できます。十字キーで設定された値は、メニューでの値に反映されます。逆も同じです。

1. 十字キーの上側を押します。

- 露出補正値の下にバーが表示されます。赤が現在の設定値です。
- この間、フラッシュモードや撮影モードなどの変更に他のキーは使用できません。表示はグレーになり、選択できないことを示します。

2. 十字キーの左右で露出を補正します。

3. 十字キーの上側を押して、露出補正を終了します。

- 露出補正値の下のバーが消灯します。
- グレーになっていた表示は通常通り点灯し、他のキーが使用できるようになります。

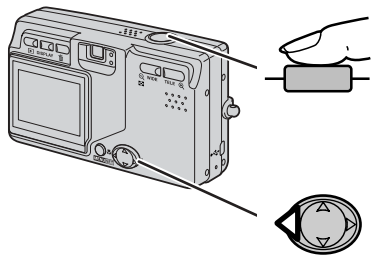
十字キーでのホワイトバランス設定

十字キーの下側を押して希望のホワイトバランスを選択します。

- 押すたびに以下の順序で設定が切り替わります。

AUTO（表示なし）→ 昼光 → 曇天 → 蛍光灯 → 白熱灯 →（AUTOへ戻る）

- マニュアル露出モードで、シャッター速度と絞り値を設定している間（数値が青で表示されている間）は、ホワイトバランスの設定ができません。キーの上側を押して、シャッター速度と絞り値の設定を一時中段して、ホワイバランスを設定してください。露出設定に戻るには、もう一度キーの上側を押します。

AFロック

シャッターボタンを半押しして固定したピント位置を記憶します。撮影後も、ピントは固定されたままですので、同じ距離のものを違う構図で連続して撮影したいときなどに便利です。

1.ピントを固定したいものに-¦-を重ね、シャッターボタンを半押しします。

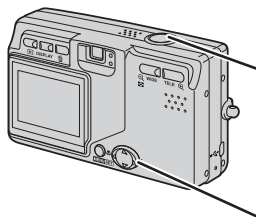
- ピントが合い、固定されると、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

2.シャッターボタンを半押ししたまま十字キーの左側を押し、ピントをロックします。

- AF が液晶モニターに現れ、固定されたピントがカメラに記憶されたことを示します。表示されている間は、シャッターボタンを押して撮影すると、ロックされた位置にピントが合います。

- 露出は、撮影時シャッターボタンを半押しした時に固定されます。
- AFロックはズームボタンやメニューボタンなどを押すと解除されます。カメラの電源を切ったりオートパワーオフから復帰した時も解除されます。

AEロック

AEロックをすると、その時の測光値（絞り値とシャッター速度）が記憶されます。測光値を一定に保ったまま繰り返し撮影したいときなどに便利です。

1.測光したいものを画面中央部に配置し、シャッターボタンを半押しします。

● 露出が合い、測光値が固定されます。

2.シャッターボタンを半押ししたまま十字キーの上側を押し、測光値をロックします。

● AEロックマークが液晶モニターに現れ、固定された測光値がカメラに記憶されたことを示します。表示されている間は、シャッターボタンを押して撮影すると、ロックされた測光値で撮影されます。

● ピントは、撮影時シャッターボタンを半押しした時に固定されます。
● AEロックはズームボタンやメニューボタンなどを押すと解除されます。カメラの電源を切ったりオートパワーオフから復帰した時も解除されます。

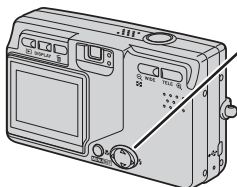
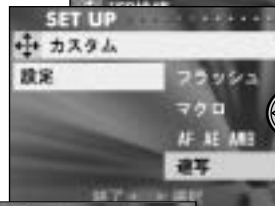
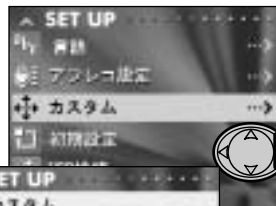
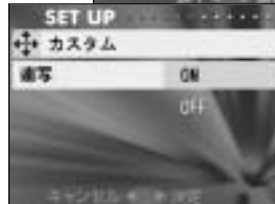
カスタム（連写モード）

通常より速度を速めて連続撮影をしたい時は、カスタムで連写モードを有効にしておきます。最高0.7コマ/秒の連写ができます。速度は被写体などの撮影条件や画像サイズ等によって異なります。上記は画像サイズ2816x2112、圧縮率ノーマル時の速度です。

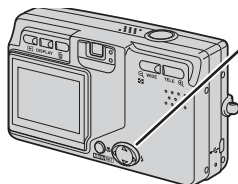
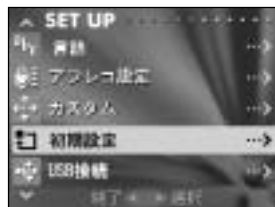
設定内容　◎は初期設定値です。

連写　シャッターボタンを押したままにした時に連写モードを起動するかしないかを選択します。

　ON　連写モードを起動します。連続撮影時、ピントと露出は、1コマ目で固定されます。

◎OFF　連続撮影時、ピントと露出は、各コマごとに合わされます。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「カスタム」→「連写」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

● フラッシュが発光する時は、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。

初期設定

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「初期設定」を反転させ、十字キーの右側を押します。

3. 十字キーとメニュー/セットボタンで初期設定に戻します。

初期設定にもどるものは以下の通りです。

ボタンで設定するもの

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
フラッシュモード	自動発光	43
撮影モード	AUTO	44
液晶モニター表示	情報表示あり	42 81

次ページへ続く

REC（撮影）メニュー

項目	設定	ページ
画像サイズ	2816×2112	50
圧縮率	NORMAL	50
ムービー	OFF	54
露出補正	±0	56
ホワイトバランス	AUTO	58
測光方式	中央重点	60
モノクローム	OFF	61
デジタルズーム	OFF	62
モニター調整	各色・明るさ±0	64
スローシャッター	OFF	68
マニュアル露出	OFF	70
画質設定	OFF	74

項目	設定	ページ
スローシャッターON時の速度	AUTO・⚡：1/60 ⊘・夜景：1/8	68
画質設定1・2の値	ISO:AUTO	74
	フラッシュ光量:±0	75
	彩度:±0	75
	コントラスト:±0	75
	シャープネス:±0	75
	色合（各色）:±0	75

PLAY（再生）メニュー

項目	設定	ページ
モニター調整	各色・明るさ±0	96

セットアップメニュー

項目	設定	ページ
RECメニュー	応用	121
クイックビュー	OFF	122
情報表示	ON	123
ビープ音	ON	124
効果音	ON	124
シャッター音	ON	124
セルフタイマー	10秒	126
オートパワーオフ	3分	127
ナンバーリセット	OFF	130
優先メモリー	SD	132
アフレコ設定	選択時	133
USB接続	カードリーダー	144

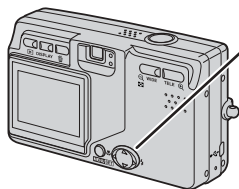
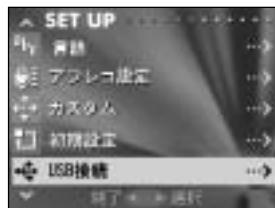
項目	設定	ページ
カスタム-フラッシュ	ON AUTO・👁・⚡・夜景・⊘	134
カスタム-マクロ	ON AUTO・🌷・▲・🕙・🌷🕙・▲🕙 OFF 4m・2m・1m	134
カスタム-AF・AE・AWB	OFF ☒・AE/AF/AWB・AF🔑・AE🔑	135
カスタム-連写	OFF	140

USB接続

USB接続時のカメラの動作モードを設定します。

設定内容　◎は初期設定値です。

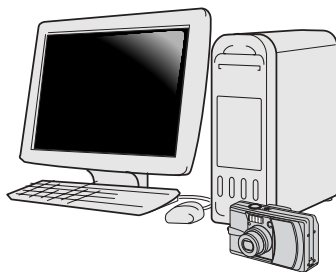
◎カードリーダー：　カメラはカードリーダーとして動作します。カメラとパソコンを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合に使用します。

PictBridge：　撮影した画像をPictBridge対応のプリンタで印刷する場合に使用します。
※PictBridge対応のプリンタでの印刷方法について→P.102

1. P.118の要領で、セットアップメニューから「USB接続」を反転させ、十字キーの右側を押します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、右側を押して決定します。

● 設定中に十字キーの左側を押すと、選択がキャンセルされ、メニュー項目選択画面に戻ります。

パソコンとの接続

この章では、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する方法を説明しています。

- カメラとパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップメニューの「USB接続」の設定を「カードリーダー」にしてください（→P.143）。
- カメラに2枚のカードが挿入されている場合、セットアップメニューの「優先メモリー」の設定を、取り込みたい画像が記録されている方のメディアにしてください（→P.132）。
- 付属のソフトウェア「DiMAGE Viewer（ディマージュ ビューア）」を使われる場合は、別冊のDiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブル USB-800をお使いください（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP（Home/Professional)、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98、98 Second Editionがインストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、Mac OS X v10.1.3～10.1.5、v10.2.1～10.2.8、v10.3～10.3.2がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（以下参照）をご覧いただくか、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。ホームページの場合は、以下のサイトから互換性情報をご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000、Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.146～

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアーCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.156～

その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.146～

パソコンに接続する（USB接続）

接続の前に、セットアップメニューの「USB接続」の設定を「カードリーダー」にしてください（→P.143）。

2つのメディアを同時にパソコンに認識させることはできません。カメラに2枚のカードが挿入されている場合、セットアップメニューの「優先メモリー」の設定が、取り込みたい画像が記録されている方のメディアになっている必要があります（→P.132）。

● 認識させたいメディアの容量がいっぱいの時など、優先メモリーがもう片方のメディアに自動的に切り替わる場合があります。希望のメディアを設定するには、使用しない方のカードを取り外してください。

1. カメラの電源を切り、カードを入れます。

● 優先メモリーが正しく設定されていることを確認してください。

2. パソコンの電源を入れます。

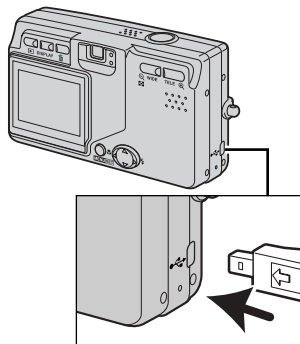
3. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

● USBケーブルを取り外す際にはP.152の指示にしたがってください。

4. 付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に差し込みます。

● ⇐マークをカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。

● 正しくUSB接続されると、緑ランプと赤ランプが点灯し、自動的にカメラの電源が入ります。

● Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.156へ、すでにしている場合はP.159へ。

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルや音声ファイルも含む）を、パソコンにコピーして保存します。

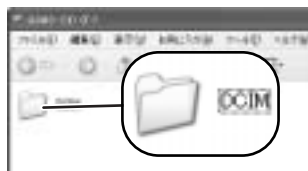
- **カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-8Uの使用をおすすめします。**
- **カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中は、カメラの電源を切る、カードや電池を取り出す（電池室/カードスロットふたを開ける）といった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。また、USBケーブルを取り外す時は、正しく接続を解除してから抜いてください（P.152）。**
- **カードのフォーマットは、カメラ側で行なってください（P.120）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。**
- **パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。**

WindowsXPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- **[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。**
- **パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の［スタート］→［マイ コンピュータ］→［G600-SD］、または［G600-MS］を開いてください。カードの名前が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。**

G600-SD＝　SDメモリーカード・マルチメディアカードを使用した場合の名前
G600-MS＝　メモリースティックを使用した場合の名前
※カードの名前は上記以外になることもあります。

※それでもカードが現れない場合は →P.159

2.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

- カードのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。
- MISCフォルダは削除しないでください。

3.［100KM017］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は［100KM017］です。

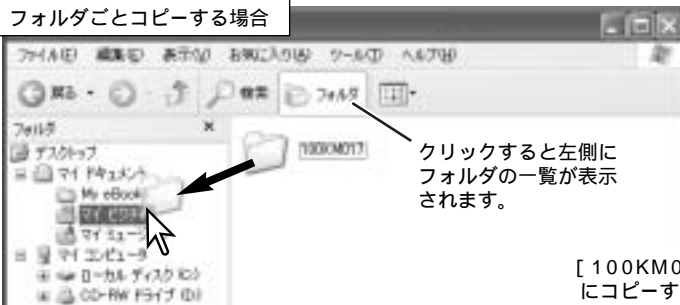
※フォルダの詳細は →P.128

フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

- お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は".JPG"）が表示される場合とされない場合があります。

4.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、［100KM017］等のフォルダごと、［マイ ドキュメント］［マイ ピクチャ］等にコピーします。

※コピーの方法（ドラッグアンドドロップ）について →P.155

［100KM017］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合

[PICT0001.JPG] を[マイ ピクチャ] にコピーする例

● 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合

1. デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

● カメラ内のカードが、「G600-SD」または「G600-MS」という名前で現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

G600-SD＝　SDメモリーカード・マルチメディアカードを使用した場合の名前

G600-MS＝　メモリースティックを使用した場合の名前

※カードの名前は上記以外になることもあります。

※それでもカードが現れない場合は →P.159

2. 現れたカードのアイコンをダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

次ページへ続く

3.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

●MISCフォルダは削除しないでください。

100KM017

4.［100KM017］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は［100KM017］です。

※フォルダの詳細は →P.128

フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

●お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は".JPG"）が表示される場合とされない場合があります。

5.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

［100KM017］［PICT0001.JPG］を［マイ ドキュメント］にコピーする例

●同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

●［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「G600-SD」または「G600-MS」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

G600-SD＝　SDメモリーカード・マルチメディアカードを使用した場合の名前

G600-MS＝　メモリースティックを使用した場合の名前

● 現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

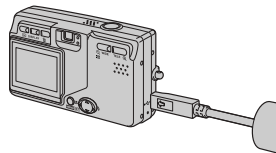
2. P.150の3～5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

● ［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

イメージキャプチャを利用する場合（Mac OS Xのみ）

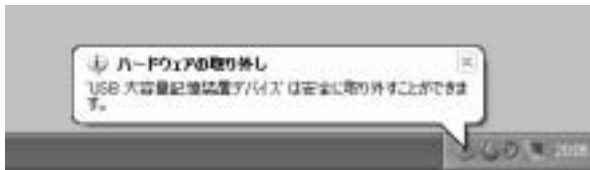
Mac OS Xでは、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）が起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、［一部をダウンロード…］または［すべてをダウンロード］をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくはパソコンメーカーにお問い合わせください。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。カメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

2.［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USBディスクの停止］を左クリックします。

3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。

4. USBケーブルを取り外します。

5. カード交換時は、カメラの電源が切れているのを確認してからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USB大容量記憶装置デバイス（DiMAGE G600）を選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. パソコンとカメラ間でファイルが転送されていないことを確認してから、USBケーブルを取り外します。
2. カード交換時は、カメラの電源が切れているのを確認してからカードを交換します。

Macintoshの場合

Mac OS 9.xの場合

Mac OS Xの場合

1. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
2. USBケーブルを取り外します。
3. カード交換時は、カメラの電源が切れているのを確認してからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける

1.画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2.見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

AVIファイル

動画撮影された画像で、最後に「.AVI」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.162

● DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。

● Macintoshの場合通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAVEファイル

ボイスメモやアフレコで録音された音声で、最後に「.WAV」が付きます。OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

パソコンでのコピー方法（ドラッグアンドドロップ）

パソコンでコピーを行なうには、マウスによるドラッグアンドドロップが便利です。

1. マウスをアイコンに合わせ、左ボタンを押します。

2. 押したままマウスを移動させます（ドラッグ）。
   - ●同一のハードディスク上でコピーを行う場合、WindowsではCtrlキーを、MacintoshではOptionキーを押しながらドラッグします。

3. コピー先を反転させ、左ボタンを離します（ドロップ）。

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

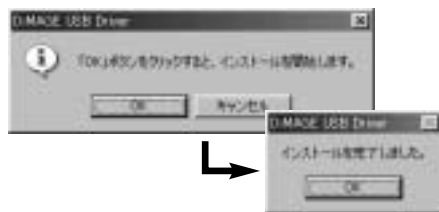
Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

- **お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。**
- **このカメラ（DiMAGE G600）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE G600のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。**

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

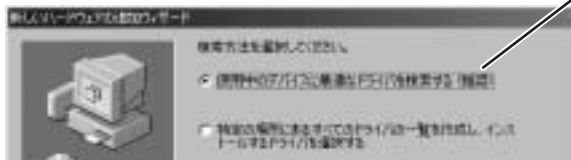
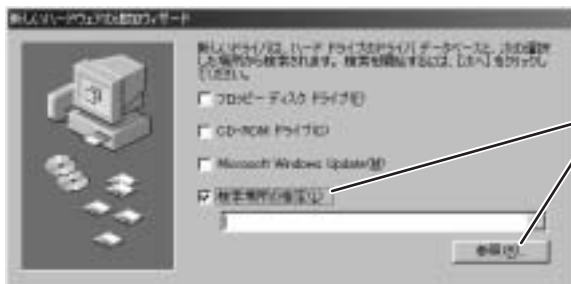
- 左の画面が現れます。

2. ［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.146～

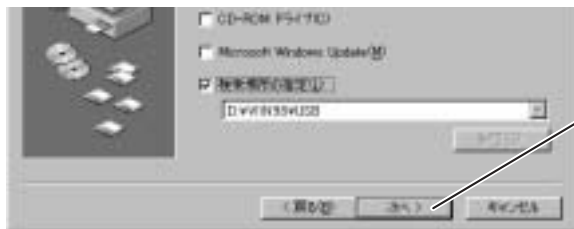
接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。下の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

次ページへ続く

5. 検索場所を、［CD-ROM］－［Win98］－［USB］の順に指定します。

6. ［次へ>］をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、［次へ>］をクリックします。

8. インストールが完了すると、［完了］をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合は、DiMAGEビューアーCD-ROM を Windowsシステム CD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもカメラ内のカードが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページも合わせてご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

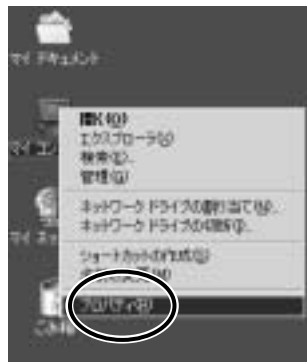
1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します（P.146）。

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

次ページへ続く

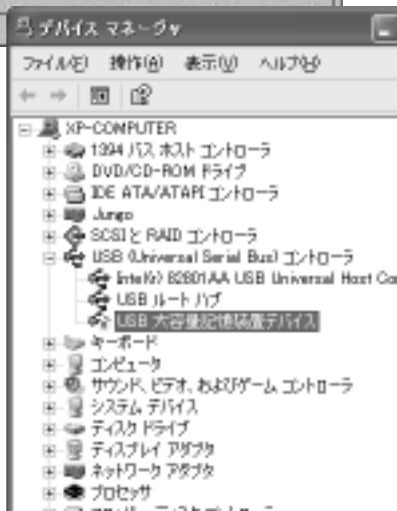
3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

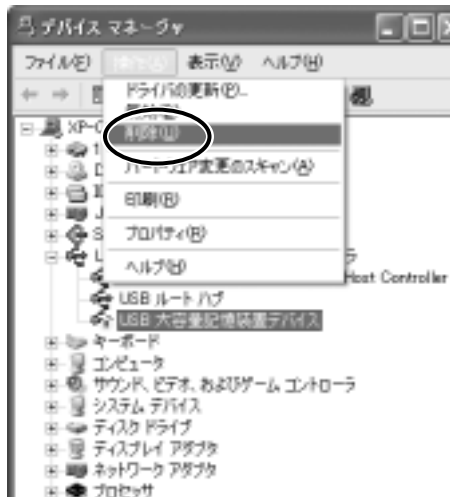
Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.146の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7. パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.146の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（P.156）、その後再度USB接続を行います（P.146）。

Quick Timeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windowsで、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

● Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6　動作環境

コンピュータ	IBM PC/AT互換機
CPU	Intel Pentium
OS	Windows 98/Me/2000/XP
必要メモリ	128MB以上の実装メモリ

インストール方法

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2.［QuickTime インストーラの起動］をクリックします。

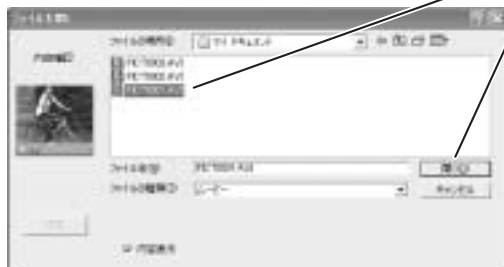
3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

● インストールの種類は「基本的なインストール」を選択してください。「最小限のインストール」だと、DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

●QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2.［ファイル（F）］から［新規Playerでムービーを開く…（O）］を選択します。

3.再生したい動画を選択し、［開く］をクリックします。

4.動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

Adobe Photoshop Album Mini

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れるとAdobe Photoshop Album Miniをインストールすることができます。[Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動]をクリックし、画面指示に従ってインストールしてください。

Adobe Photoshop Album Miniは、デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正をしたりすることができます。

また、インターネットに接続することにより、弊社のオンラインラボサービスを利用して、撮影した画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムへ画像を保管することができます。

弊社のオンラインラボホームページ （http://onlinelab.jp/）へアクセスすることで上記の他にも様々なサービスが楽しめます。WindowsでもMacintoshでもご利用になれます。

PCカメラドライバ

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、[DiMAGE PC Cameraドライバインストーラの起動] が現れます（上図参照）が、DiMAGE G600ではこの機能は使用できません。

その他

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードがありません	カードが入っていない	カードを入れてください。カードが入ってないと、撮影や再生はできません。	24
メモリーがいっぱいです	(撮影時) カード容量がいっぱいである	画像サイズまたは圧縮率を変更する、撮影した画像を消去する、カードを交換する、カードを追加するのいずれかを行なってください。	50 92
	(再生時時) 画像コピー・移動・リサイズで、カードの残容量以上の画像を一度に指定した	一度に指定する画像数を減らしてください。	88 112 106
カードがプロテクトされています	SDメモリーカードまたはメモリースティックが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、カードのライトプロテクトスイッチを解除してください。	24
読み込めません	カードがフォーマットされていない	カメラでカードをフォーマット(初期化)してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。	120
データがありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
アフレコできません	すでにアフレコされた画像、プロテクトされた画像、またはボイスメモ、ムービーにアフレコを録音しようとしている	アフレコ画像についた音声の消去をする、またはプロテクト画像にアフレコする場合はプロテクトの解除を行ってください。ボイスメモ、ムービーにはアフレコできません。	67 111

メッセージ	原因	対策	ページ
プリンタを確認してください	PictBridgeで、用紙切れ等プリンタ側で問題が起こっている	プリンタの問題を解決してください。	105
バッテリーがありません	電池が切れた	電池を充電する、ACアダプタを使う、のいずれかを行なってください。	20
システムエラー	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ページ
撮影ができない	電池が消耗している	電池を交換してください。	20
	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影できません。	—
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターがOFFになっている	ディスプレイボタンを押してONにしてください。	42 81
	オートパワーオフが作動した	約3分間以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます。	29
ファインダー横の緑ランプが点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.36）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	36

次ページへ続く

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
ファインダー横の緑ランプが点滅している	被写体に近づき過ぎている	広角側ではカメラより約50cm、望遠側では約80cm以上、マクロ選択時は広角側ではカメラより約6cm、望遠側では約50cm以上離れたものにしかピントが合いません。	36
	レンズが汚れていてピントが合わない	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
ファインダー横の赤ランプが点滅している	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレートのため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
マニュアル露出撮影で露出値が赤く表示される	設定したシャッター速度と絞り値では写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	71
再生や設定ができない	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影や再生、カメラの設定はできません。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	38 75
写真がぶれている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ぶれを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—

別売りアクセサリー

リチウムイオン電池充電器BC-600用 ACコード

リチウムイオン電池充電器BC-600に付属のACコードはAC100V～120V仕様で、日本、アメリカ、カナダ、台湾の使用が可能です。他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは弊社のカメラ写真情報サイト（http://ca.konicaminolta.jp/）の「よくあるご質問（FAQ）」でもご覧いただけます。

地域	ACコード
日本、アメリカ、カナダ、台湾向け（100～120V仕様）	ACコードAPC-170（付属品）
ヨーロッパ（イギリスを除く）、韓国、シンガポール向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-150（別売り）
イギリス、香港向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-160（別売り）

その他

屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターを使用すると電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。
その他本革カメラケースCS-DG1200や予備のリチウムイオン電池NP-600などもご用意しています。

この使用説明書裏面に記載のホームページで、詳しい情報についてご覧いただけます。

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
- いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～50℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

SDメモリーカード・メモリースティック等記録メディアについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
  2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々カメラを作動させるようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また本製品の補修用性能部品は、生産終了後5年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品の修理に関しては、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

主な性能

有効画素数	約600万画素
撮像素子	1／1.76型総画素約640万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 50、100、200、400相当
画面アスペクト比	4:3
レンズ構成	6群7枚
焦点距離	8－24mm（35mmフィルム換算：39－117mm相当）
開放絞り値	F2.8－F4.9
撮影距離	Wide:0.5m－∞（レンズ先端から） Tele:0.8m－∞（レンズ先端から） マクロモード時: Wide:0.06m-∞ （レンズ先端から） Tele:0.5m-∞（レンズ先端から） 最大撮影倍率：0.117（ワイド時）35mmフィルム換算で0.552倍相当 最大撮影倍率時の被写体サイズ：46 x 63 mm
ズーム方式	電動ズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスエリア	中央
フォーカス制御	AF（ワンショットAF）
フォーカスロック	可能（シャッターボタン半押しによる）
ホワイトバランス	AUTO、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天
測光方式	中央重点的平均測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：　プログラムAE:1秒～1/2000秒 マニュアル露出：15秒～1/1000秒
AEロック	可能（シャッターボタンを半押ししながら十字キー操作で可能）
露出モード	プログラムAE、マニュアル露出
撮影モード	AUTO、マクロ、遠景、セルフタイマー、フォーカス固定(4m、2m、1m)
露出補正	±1.5Ev（0.3Evステップ）
フラッシュ制御方式	自動調光
フラッシュモード	自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止、夜景ポートレート
フラッシュ連動距離	広角：約0.5～3.0m、望遠：約0.8～1.7m（撮影感度オート時、レンズ先端から）
充電時間	約6秒
調光補正	±1Ev（0.5Evステップ）
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー

ファインダー視野率	75%以上
アイポイント	13.5mm（接眼レンズより）11.6mm（接眼枠より）
A/D変換bit数	10 bit
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード、メモリースティック、メモリースティックPro
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG（AVI、音声付き） DCF 1.0準拠 DPOF(Ver.1.1)のプリント機能対応 Exif2.2
記録フォルダ形式	標準形式
Exif Print	対応
記録画素数	2816x2112、2272x1704、1600x1200、640x480
画質モード	Fine（ファイン）、Normal（ノーマル）
カラーモード	カラー、モノクローム（セピア、白黒）
シャープネス	5段階調整可能
コントラスト	5段階調整可能
彩度	5段階調整可能
色合	赤・緑・青　各色5段階調整可能
Exif Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、光源　etc.）、色空間情報 あり（但しsRGBのみ）
ファイルコピー機能	あり　SDメモリーカードとメモリースティック間のコピー可能（選択コマ／全コマ）
ファイル移動機能	あり　SDメモリーカードとメモリースティック間の移動可能（選択コマ／全コマ）
画像リサイズ機能	あり　640×480、320×240へリサイズ可能
消去機能	あり（1コマ／選択コマ／全コマ） 誤消去防止機能：あり（選択コマ／全コマ）
フォーマット機能	あり
液晶モニター	1.5型（3.8cm）低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：約11.7万画素 視野率：約100%
連続撮影	約0.7コマ／秒(「連写モード」ON時）撮影条件による
撮影モード	AUTO、マクロ、遠景、セルフタイマー、フォーカス固定（4m、2m、1m）
セルフタイマー	3秒、10秒
動画	ファイル形式：Motion JPEG（AVI）　記録画素数：320×240 フレームレート：15フレーム／秒 録画時間：1回につき最大30秒　音声あり（モノラル）
音声	ボイスメモ（最大30秒）、アフレコ（最大30秒）モノラル ファイル形式：WAVE形式

次ページへ続く

主な性能（続き）

デジタルズーム	2倍、3倍 （2ステップ）
操作音	ビープ音、効果音、シャッター音のON/OFF設定可能
使用電池	本体：専用リチウムイオン充電池　1本
外部電源	DC 4.2V（ACアダプター INPUT 100～240V）
連続動作時間	連続再生：約180分　当社試験条件（電池は付属品を使用）
撮影可能コマ数	約160コマ　CIPA*準拠。（電池、メモリーカードは付属品を使用）
PC用インターフェース	USB USB2.0対応機器に接続した場合、Full speed(12Mbps)の転送速度となる。
PictBridge	対応
大きさ	94（幅）× 56（高さ）× 29.5（奥行き）mm
質量（重さ）	約195g（電池、記録メディア別）

*CIPA:　カメラ映像機器工業会

リチウムイオン電池 NP-600

電圧	3.7V
容量	860mAh
大きさ	31.8 × 49.8 × 9mm
質量（重さ）	約25g

リチウムイオン電池充電器 BC-600

入力電圧	AC100～240V*
入力周波数	50／60Hz
入力容量	0.1A（100V）～0.06A（240V）
充電出力	4.2V DC　0.8A
充電時間	約120分
大きさ	71 × 57.5 × 25.8mm
質量（重さ）	約57g（電池別）

*充電器に付属のACコードはAC100～120V仕様です。※海外で使用する場合は →P169

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

か

さ

た

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問（FAQ）とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。
　http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
　http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　　06-6532-6205

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　　06-6532-6252

受付時間　10：00 ～18：00（日・祝日定休）

Printed in Japan
9223-2744-11　P-A404